

令和6年度 実績報告書

令和6年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
一般社団法人 全国専門学校教育研究会 授業改善サポーター養成講座開発委員会
「教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進」

一般社団法人全国専門学校教育研究会

1. 概要	2
2. 趣旨・目的	3
3. 「授業改善サポーター」の定義	3
4. 「授業改善サポーター養成講座」の概要	3
4.1. 対象	4
4.2. 内容	5
5. 令和5年度「授業改善サポーター養成講座」受講者への6ヶ月後調査	8
5.1. 調査概要	8
5.2. アンケート結果報告	8
5.3. インタビュー結果報告	9
6. 「授業改善サポーター養成講座 事後アンケート(3回)」	12
6.1. 調査概要	12
6.2. 「授業改善サポーター養成講座」の定義	13
6.3. 調査対象	13
6.4. 調査日程	14
6.5. 調査手順	14
6.6. アンケート調査結果	15
6-6-1. 9段階評価アンケート	16
6-6-2. 研修の実施方法および内容についてのアンケート	42
7. 2025年度に向けた講座の課題点・改善点	62

1. 概要

この調査は、文部科学省委託事業 令和6年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」における3. 授業改善サポーター養成講座開発委員会「教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進」の取り組み（以後、「本事業」）の一環として実施されたものである。

本事業では、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイスや提言の提供、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる人材「授業改善サポーター」を育成することを目指す。そのために①令和5年度実施の「授業改善サポーター養成講座」を受講した15名を対象としたアンケート並びにインタビュー調査の実施、②授業改善サポーター養成講座に必要な専門学校教員を対象としたビデオ教材を開発する、③令和6年度版の授業改善サポーター養成講座の開発・実施（他教員への授業改善提案）、④講座実施後のリフレクション情報の収集をすることで、自校の職員の指導力向上に向けた課題等を把握し、必要な研修を企画設計するための手順や必要な知識、スキルを学ぶことを目指す。

本報告書は、授業改善サポーター養成講座開発委員会（以後、「委員会」）により「授業改善サポーター養成講座事後アンケート（3回）」を実施し、分析・検討したものをまとめたものである。

2. 趣旨・目的

本調査報告書は、「授業改善サポーター養成講座」における受講生のアンケートをまとめ、課題点と改善点を明らかにすることが目的である。そして、次年度以降の授業改善サポーターの改善の一助とする。

3. 「授業改善サポーター」の定義

「授業改善サポーター」とは、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイスや提言の提供、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる人材のことを指す。また、「授業改善サポーター」が、自校の知見のみならず、他校の知見も共有することにより効果的で質の高い教育を実施することを期待されている。

なお、「授業改善サポーター養成講座」は、「授業改善サポーター」を育成するために実施した3回にわたる研修である。受講生自身の授業改善目的ではないことを明示した上で受講生募集を行った。「授業改善サポーター養成講座」の詳細は、4.「授業改善サポーター養成講座」にて後述する。

4. 「授業改善サポーター養成講座」の概要

令和6年度に実施した「授業改善サポーター養成講座」のスケジュール、実施形態、対象、内容については以下の通りである。

	オリエンテーション	研修1	研修2	研修3
日程	令和6年10月15日（火）	令和6年11月5日（火）	令和6年11月26日（火）	令和6年12月17日（火）
時間	15時～16時	13時～16時	15時～18時	15時～18時
形式	オンライン（Zoom）	対面（福岡）	オンライン（Zoom）	オンライン（Zoom）

4.1. 対象

インストラクショナルデザインの基礎知識をもち、授業改善サポーターとして、自校での教育改善に寄与しようとする中堅教員。

4.2. 内容

単元名	授業改善サポーター養成講座		
概要	令和4年度文部科学省委託事業として株式会社三菱総合研究所が取りまとめた職業実践専門課程の質保証・向上のための実態調査報告の中で、『実務には自信があるが、生徒の理解や指導、教育に必要な知識や技能に不安を感じている』という実態が発表された。 また、過日の全国専門学校教育研究会加盟校への大規模アンケート調査により、約80%の回答者が自校では授業改善コンサルテーションが実施されているとの回答があったが、内容や持続的な実施方法・組織体制、頻度、コンサルテーションそのものの改善に課題があることが分かった。 その上で本講座は、授業の観察や評価、教員のカウンセリングやコーチング、授業改善に関するアドバイスや提言の提供、教員の授業計画や教材の開発支援等ができる人材『授業改善サポーター』を養成するための講座である。		
到達目標	・授業改善サポーターとして、各種ツールを活用して授業改善のためのコンサルテーションを行うことができる ・自校における授業コンサルテーションの普及を目指した施策を、個人レベル、組織レベルで提案することができる ・授業改善サポーターとして相談し支援し合えるコミュニティを形成する		
講義計画	形態	内容	時間(分)
1	課題	(研修1の事前課題) ① 掲示板での自己紹介 ② 授業改善活動分析レポート ③ 授業シラバス案の改善提案 ④ 改善提案項目の検討(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編1モジュール参考)	120
2	対面	(研修1) 授業改善サポーター養成講座の目標と、 授業改善サポーターの定義の共有	10
3	対面	(研修1) インストラクショナルデザインの概要と改善提案	40
4	対面	(研修1) 授業改善の具体的方法 :科目デザインにおける工夫チェックリストの説明 :メーガの教育設計の3つの質問 :ガニエの学習成果の分類	30
5	対面	(研修1) 事前学習のグループ共有 :ジグソー法を活用した教育改善スキル修得オンラインプログラムにおける事前学習モジュールの内容共有	40
6	対面	(研修1) 授業改善活動分析レポートの共有	40
7	対面	(研修1) 研修1のまとめ :研修1事後学習、研修2事前学習の共有	20

8	課題	(研修1 事後学習/ 研修2事前学習) ① アクションプランと省察レポート ② 授業改善サポート実施報告1 ③ 授業シラバス案の改善提案のアップデート ④ 改善提案項目の検討(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編1モジュール参考) ⑤ 授業コンサルテーションの実施 *掲示板でのコミュニケーション	① 60 ②～④ 180 ⑤ 任意
9	オンライン	(研修2) 研修1から1か月間の振り返り :アクションプランと省察 :教育改善スキル修得オンラインプログラムにおける 各モジュールの復習 :シラバスの改善内容の振り返り	30
10	オンライン	(研修2) 研修2の事前課題の共有 グループ共有(授業改善サポート実施報告) 全体共有(授業改善サポート実施報告)	90
11	オンライン	(研修2) グループワーク(サポートツールの開発計画)	30
12	オンライン	(研修2) コミュニケーションツールの確保 :Discordのセットアップ	20
13	オンライン	(研修2) 研修2のまとめ :研修2事後学習、研修3事後学習の共有	10

14	課題	(研修2 事後学習/ 研修3 事前学習) ① アクションプランと省察レポート ② 授業改善サポート実施報告2 ③ 授業シラバス案の改善提案の更なるアップデート ④ 改善提案項目の検討(熊大教授システム学分野拠点事業科目デザイン編1モジュール参考) ⑤ 授業コンサルテーションの実施 *掲示板でのコミュニケーション	① 60 ②~④ 180 ⑤ 任意
15	オンライン	(研修3) 各自で用意した授業改善サポートツールの グループ共有と全体発表	100
16	オンライン	(研修3) 研修3の事前課題の共有 :グループ共有(授業改善サポート実施報告) :全体共有(授業改善サポート実施報告)	45
17	オンライン	(研修3) 研修1から1か月間の振り返り :アクションプランと省察 :自己評価シートの項目についての省察	30
18	オンライン	(研修3) 本講座で得られた学びの振り返り	5
19	課題	(研修3事後学習) 掲示板でのコミュニケーション ① アクションプラン ② 自己評価シート *掲示板でのコミュニケーション	60
合計	分		720
	時間		12
教材	パワーポイント、教育改善スキル修得オンラインプログラム、授業改善サポーター実施報告書等		
評価方法	授業改善サポーター業務報告2件、アクションプランと省察レポート3件を総合的に判断し評価する		

5. 令和5年度「授業改善サポーター養成講座」受講者への6ヶ月後調査

5.1. 調査概要

令和5年度「授業改善サポーター養成講座」受講者への調査を以て、令和6年度の同講座の改善検討資料とすることを目的とした。自動集計用Webアプリケーション(Google Forms)を利用しアンケートを行い、受講者15名のうち10名の回答を得た。その後、回答者10名のうち7名にオンラインインタビュー(Zoom)を行えた。

5.2. アンケート結果報告

令和6年度「授業改善サポーター養成講座」への改善につながるコメントは以下の通りであった。

設問	代表コメント【回答者】
講座で学んだことの達成度について、現在の状況を教えてください。	講座を受け、学んだことを自らの授業改善、相談された際のアドバイスには活かしている。しかし、授業改善サポーターとしての活動を組織化出来ておらず、その時々活動に留まっている。コマシラバスの作成と授業見学に関しては組織としての取り組みが始まっている。【専門学校YICリハビリテーション大学校 I先生】 研修を受け、どのような状況を目指したいかを小レポートにまとめ配布した。チーム内に授業力向上チームを作成し活動を支援している。【麻生リハビリテーション大学校 H先生】 自身の計画について：新カリキュラム(領域横断)コマシラバス作成について、担当科目・単元については進行中。その他1科目を作成した。学科の教育力の向上について、上司の支援もあり、新任教員の模擬授業の実施・助言、聴講・授業見学は実施できたが、教員間の授業見学、授業評価は未実施。学科内教員のコマシラバス作成は個人差があり、実習評価(ルーブリック評価)の検討は一部できていない。 研修での学びの活用：演習の構成や評価について、思考の機会をつくり、学びを深める工夫や達成度をはかり、公平な評価をおこなえるよう意識している。【YIC看護福祉専門学校 H先生】 学校独自のツールとして毎回授業後のアンケートを実施している。このアンケート結果をもとに各先生方が自身が授業改善を実施している。【麻生外語観光&ブライダル専門学校 U先生】 授業改善サポーター研修の際に記載した授業支援ツール

	については使用しており一定の効果があります。【麻生建築&デザイン専門学校 I先生】
授業コンサルティング普及への施策について、現在の状況を教えてください。	日々の業務に追われ十分に取組めなかった。良い研修だっただけに、勿体ない気持ちです。【専門学校YICリハビリテーション大学校 I先生】 チームの主体性を動かすことの難しさを感じています。【麻生リハビリテーション大学校 H先生】 科内会議などで進捗状況の確認や情報共有をおこなったが、教員個人が目的や必要性を認識できるよう、また適切なサポートが得られるようにした方が良かった。せっかく作成してもそれが適切なのかタイムリーに助言できていなかった。研修を受講している教員含めた学習会などをする必要がある。【YIC看護福祉専門学校 A先生】 始まったばかり。定着させるためにはトライ&エラーを繰り返すことが必要かなと思う。【麻生外語観光&ブライダル専門学校 U先生】

5.3. インタビュー結果報告

アンケート回答者10名のうち7名にオンラインインタビュー（Zoom）が行えた。講座で学んだことの効果、自校での定着状況についてヒアリングを行った。概ね、完全ではない状態であるものの、試行錯誤しつつ定着に進んでいる様子であった。

学校名・回答者	回答内容
麻生リハビリテーション大学校 H先生	2024年8月19日インタビュー ● 言語聴覚士コース（H先生がリーダー）に9名の先生が在籍。 ● 授業力向上サポートチームに若手教員3名が在籍（2年目、3年目）。ゴール確認、現状共有を月一MTG開催している。これをH先生がマネージしている。進捗状況を以下の親委員会にレポートしている。 ● 親委員会として、学校として「授業力向上委員会」あり。DX推進も兼ねている。 ● 『アウトカム基盤型教育』の完成がゴール（責任者は部門長であるが、H先生も積極的に関わっている）これは、学生、教員など関係者がアウトカムを理解し、カリキュラムマップ、マイルストーン、各科目シラバス、コンピテンシーマップ、ルーブリックなど評価ガイドと一貫性を以て連動させること。今年が1年目、3年間でゴールを達成させる。 ● 教員の存在意義は自己調整学習者を育成できること、その見分けはリフレクション（やりますという表明だけでなく、やってみてどうだったのかと

	いう実践＆省察ができていない状態)特にベテランの先生ほど、上記の授業力向上に主体性が無い。上司がフィードバックしていない、諦めモード有り。 ● 組織として授業力向上を前進させるためには小さな成功事例を作って、ムーブメントを作っていくしかないというご意見。
麻生外語観光＆ブライダル専門学校 U先生	2024年8月21日インタビュー ● teacherというアプリを使って、「学レポ」という学生アンケートをとっている(授業毎)。授業後の実施 → 次回授業に反映 1～7の選択肢式設問を3つと、自由記載欄がある。スマホで実施。今日の授業はどうだったという現場での改善(説明を短くする、小テストのタイミングを変える、まとめを最後に言う etc)は期待できるが、授業全体、教材、計画、シラバスといった上流の改善には至っていない。アンケートを毎回とると、精度がだんだん落ちてくる。学生がだんだん雑な回答をしてくる。記名式。 ● 教育力マネジメント委員会発足。令和6年度の目標は現状把握。非常勤講師とのコミュニケーション面談を計画的に実施。学生指導力(退学予防)のUPを期待している。学生の基礎学力は年々低下→授業についていけない→目標を見失う→退学 という悪循環がある。 ● 授業見学をルール化(関心のある授業、事前に「授業の見どころ」がリスト化され公開されている)、目安2回/前期を目標、見学実績を入力、見学レポートは課していない、年度末に見学した人に対してアンケート予定。 ● この委員会のゴールは、今年だけの取り組みにせず毎年続けること、組織的に動くこととしている。
中央カレッジグループ K先生	2024年8月26日インタビュー ● 令和6年度、K先生部下の2年目先生、10年目先生への授業改善サポートをスモールスタート予定だったが、令和6年度にK先生が異動で、うやむやに。 ● 本当は年度末の職員会議で上程して、学校という組織単位で授業改善サポート運動をしたかった。 ● 具体的なサポート運動内容は、学生に回答してもらう授業改善アンケートフォームを作って、学生ニーズを拾うもの。例えば、15コマある科目の7コマ目あたりで実施する。「声が小さい」「板書が小さく読みにくい」といったヒアリング項目あり。
専門学校YICリハビリテーション大学校 I先生	2024年8月26日インタビュー

	● I先生は作業療法の学科長。 ● YICグループとして以下、努力義務的な通達あり。 ● コマシラバス整備について。現状、完備されていない。厚労省の指定規則変更に伴い、コマシラバスの作り直しが追い付いていない。新コマシラバスは先生方の頭の中にある状態。 ● 授業見学について。各校で取り組むようになった。各科の学科長により、1教員1授業を見学。フィードバックのフォーマットは自由。 ● 本部から授業見学にくる。内部監査？の部長が担当。前期で1-2回実施(対象は主に若い先生の実技・座学の授業) ● 昨年度、新人2名が入職。昨年度、この新人対象に授業見学実施済。本人たちから質問が有り次第、サポートしているのが現状。今年も10月に新人が入職する。 ● 同じ分野の学校の先生であれば、他校の先生であってもコミュニケーションできる。 ● ChatGPT3.5を使って、授業資料を読み込ませて、コマシラバスの生成を実験中→フォーマットに落とし込む→人間によるチェック。コマシラバス作成の効率化に校長が乗り気の様子。
YIC看護福祉専門学校 H先生	2024年8月26日インタビュー ● 授業改善サポートは学科全体の底上げが目的。 ● H先生による個別の声掛け、会議体、個人面談を通して、また上司(副校長)からの声掛け・指示という支援もあり、コマシラバス完成をサポートしている。コマシラバス研修の受講者主導での改革だと強制力がない。 ● 「仕事が増える」、ベテラン教員は「指示されるのが嫌」といったハードルもあり、リーダーシップ取りたがらない。 ● 8月いっぱいまでに少なくとも1科目1単元を仕上げるのが目標とのこと。コマシラバスの書式が指定されている。 ● 今年度、5人の先生が入れ替わった(軸となる先生が辞めてしまった)。この新人5名のサポートに注力している。 ● 現在、先生同士の授業評価基準シートがない ● 軸となる担当教員不在の領域のルーブリックがない。報告・指示系統、学生支援マニュアルといったツール整備が追い付いていない。ゆえに、各人の経験値、属人的な対応に終始している。 ● 医療系であって、グループ校であってやり方が違うので、他校の先生とコミュニケーションを取りづらい(Discordなど)。
専門学校YICリハビリテーション大学校 S先生	2024年8月27日インタビュー

	● S先生は理学療法士の学科長。実質3名の学科(S先生含む)。 ● 授業見学を計画的に実施中(2024年度より) ● YICグループのIR部門からの指示あり、強制力働いている。 ● かつて授業見学をやっていたが、途中からやらなくなってしまった。理由は離職者、マンパワー不足。 ● 研修で一緒になった他校との(研修後の)交流なし。 ● 令和6年度の授業改善サポーター養成講座で実施したことを、部下相手に改善を計画的に実施中(授業見学、シラバス)。
YIC情報ビジネス専門学校 A先生	2024年8月27日インタビュー ● A先生。情報ビジネス学科長。同学科には常勤講師1名(A先生)、非常勤講師3名が在籍している。 ● 非常勤講師への授業サポートができていない。 ● 授業に入る前のチェックリスト(非常勤講師や新人向け)を作りたい。 ● YIC情報ビジネス専門学校の5学科分のシラバスチェックの役割を担っている。シラバスの記入方法の統一、成績評価方法、4つの目標項目との連動した書き方などの内容ブラッシュアップしている。 ● Udemyの動画教材等を使ったハイブリッドラーニングの授業運営サポートをしている。 ● 河原学園のシラバス書き方を参考にしている。

6. 「授業改善サポーター養成講座 事後アンケート(3回)」

6.1. 調査概要

「授業改善サポーター養成講座 事後アンケート(3回)」とは、3回にわたる授業改善サポーター養成講座に参加した教員12名を対象とし、講座終了直後に実施した3回のアンケートを指す。アンケート結果は、自動集計用Webアプリケーション(Google Forms)を利用し、集計した。

なお、アンケート調査項目については、本事業の実態調査ワーキンググループにて検討したうえで確定し、アンケート調査結果についても、同WGにて分析・検討を行った。

6.2. 「授業改善サポーター養成講座」の定義

「授業改善サポーター養成講座」(以下、「講座」とは、授業改善サポーターを育成するための講座である。講座はオリエンテーション、研修1、研修2、研修3の4部構成であり、詳細は以下のとおりである。オリエンテーションでは研修講師紹介、受講生紹介、講座目的・内容・スケジュールの説明、LINEグループの説明、事前学習の説明を行った。また、各研修ごとに事前・事後課題も用意した。さらに、研修講師と受講生とのコミュニケーションは、熊本大学保有の学習管理システム(LMS)MoodleとLINEグループ¹を利用した。

	オリエンテーション	研修1	研修2	研修3
日程	令和6年10月15日(火)	令和6年11月5日(火)	令和6年11月26日(火)	令和6年12月17日(火)
時間	15時～16時	13時～16時	15時～18時	15時～18時
形式	オンライン (Zoom)	対面(福岡)	オンライン (Zoom)	オンライン (Zoom)

研修1、研修2、研修3の流れは以下のとおりである。

6.3. 調査対象

講座参加者(以後、「受講生」)12名

6.4. 調査日程

研修1アンケート: 令和6年11月5日(火)

研修2アンケート: 令和6年11月26日(火)

¹ LINEグループとは、研修講師と受講生間の情報共有などコミュニティ醸成のための無料のテキスト投稿プラットフォームのことを指す。

研修3アンケート: 令和6年12月17日(火)

6.5. 調査手順

(2) アンケート調査項目の検討と整理

- ・令和5年度「授業改善サポーター養成講座」との比較のため、令和5年度と同じ調査項目とした

(3) アンケートフォームの作成

- ・回答を容易にするため、アンケート結果の自動集計用Webアプリケーション(Google Forms)を用いたアンケートフォームの作成

(4) アンケート調査への回答を依頼

- ・研修1、研修2、研修3終了直後にアンケートへの回答を依頼、研修時間内に回答してもらった

(5) アンケート調査結果の分析・検討

- ・研修1の事後アンケートは授業改善サポーター養成講座開発委員会 第3回ワーキンググループ(令和6年11月5日(火))にて分析・検討
- ・研修2、研修3の事後アンケートは授業改善サポーター養成講座開発委員会 第4回ワーキンググループ(令和6年12月20日(金))にて分析・検討
- ・授業改善サポーター養成講座の方向性の再検討

6.6.アンケート調査結果

実施者:一般社団法人 全国専門学校教育研究会

事業名:文部科学省委託事業 令和6年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」「教職員の資質能力向上に必要な教職員研修プログラムの構築・普及・推進」

アンケート調査への回答期間:各講座終了後

依頼数:12名

回収数:12名

回答者数:12名

※「4-6-1. 9段階評価アンケート」における数値平均、標準偏差は小数点第二位を四捨五入する

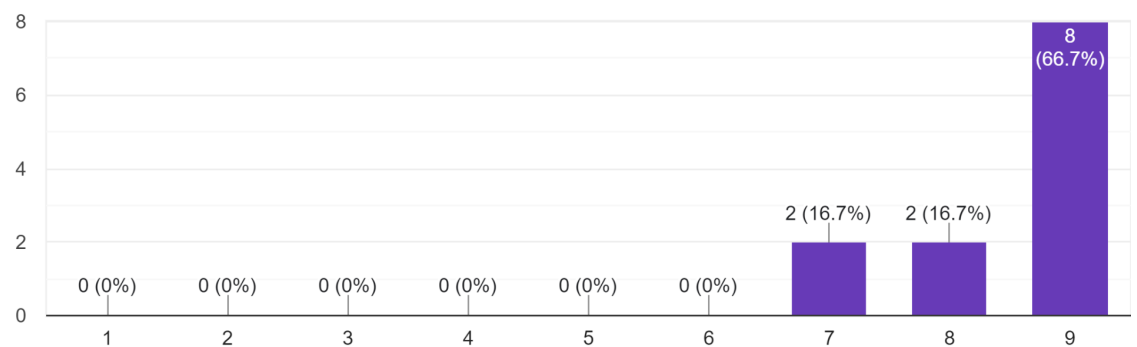
6-6-1. 9段階評価アンケート

(1)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...つまらなかった 9...おもしろかった)

研修1

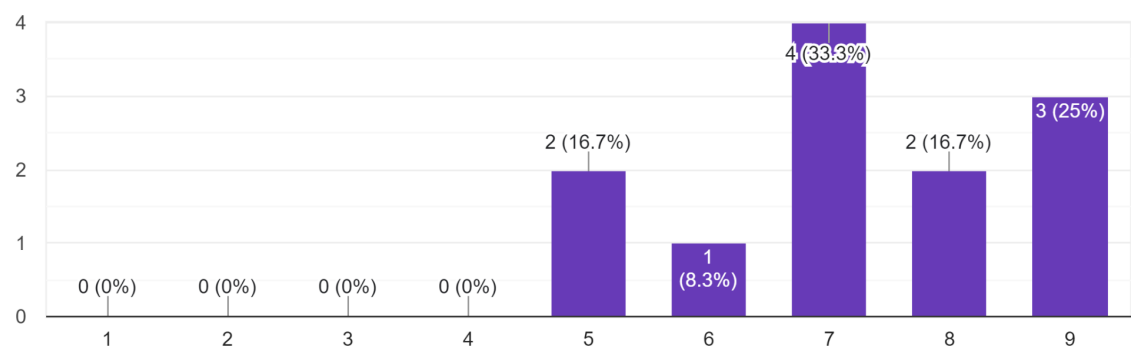
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま... (1...つまらなかった、9...おもしろかった)
12件の回答



平均:8.50 標準偏差:0.76

研修2

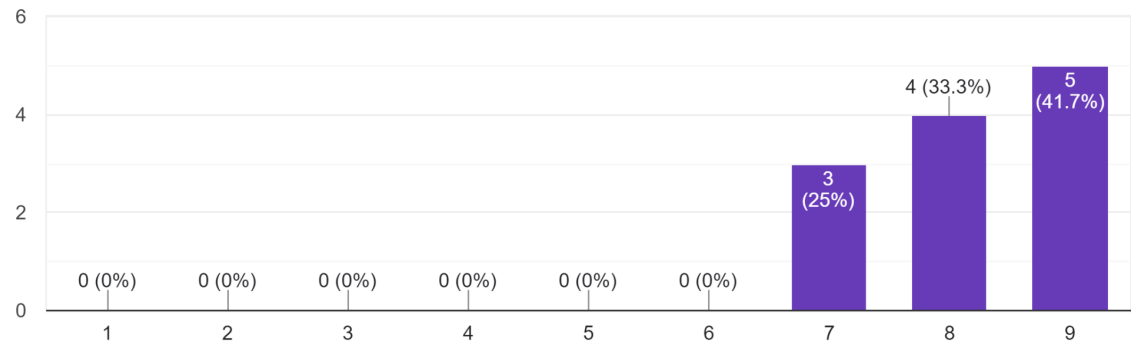
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま... (1...つまらなかった、9...おもしろかった)
12件の回答



平均:7.25 標準偏差:1.36

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持ちま...（1...つまらなかった、9...おもしろかった）
12件の回答



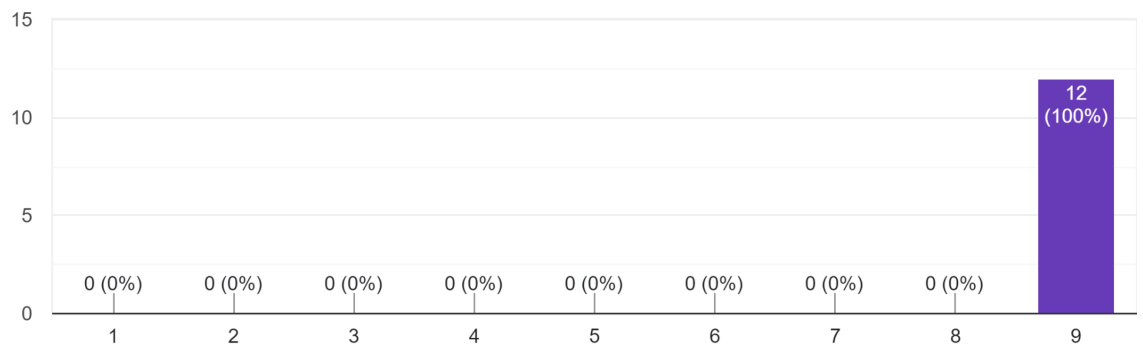
平均:8.17 標準偏差:0.80

(2)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのくらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...眠かった 9...眠くならなかった)

研修1

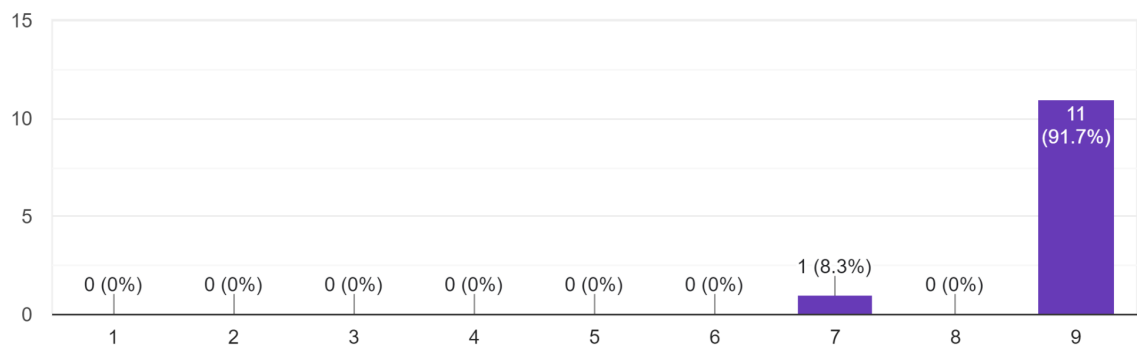
この研修全体について、
 次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま…。 （1…眠かった、9…眠くならなかった）
 12件の回答



平均:9.00 標準偏差:0.00

研修2

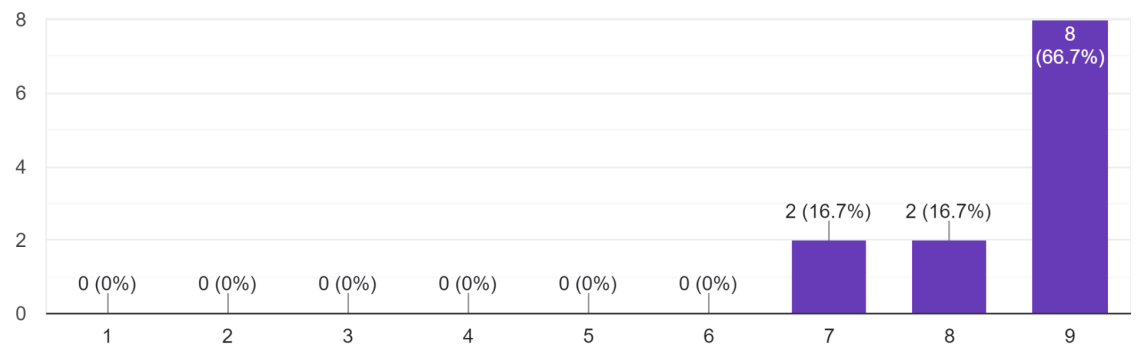
この研修全体について、
 次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま…。 （1…眠かった、9…眠くならなかった）
 12件の回答



平均:8.83 標準偏差:0.55

研修3

この研修全体について、
 次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま...。 （1...眠かった、9...眠くならなかった）
 12件の回答



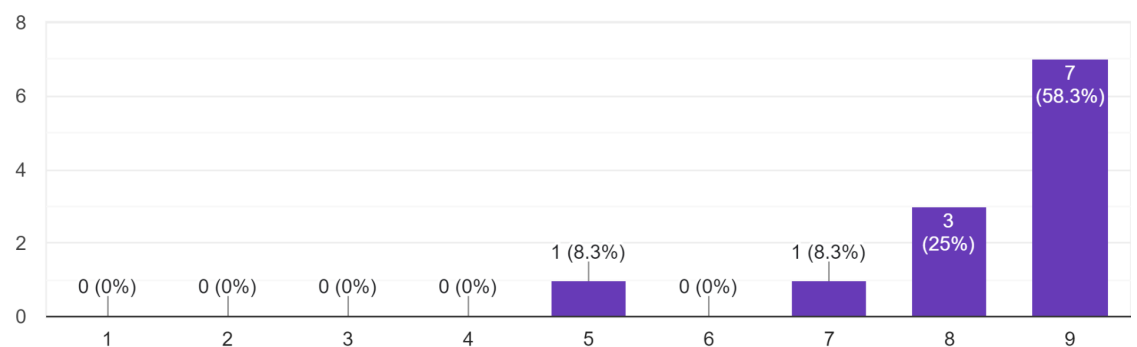
平均:8.50 標準偏差:0.76

(3)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...好奇心をそそられなかった 9...好奇心をそそられた)

研修1

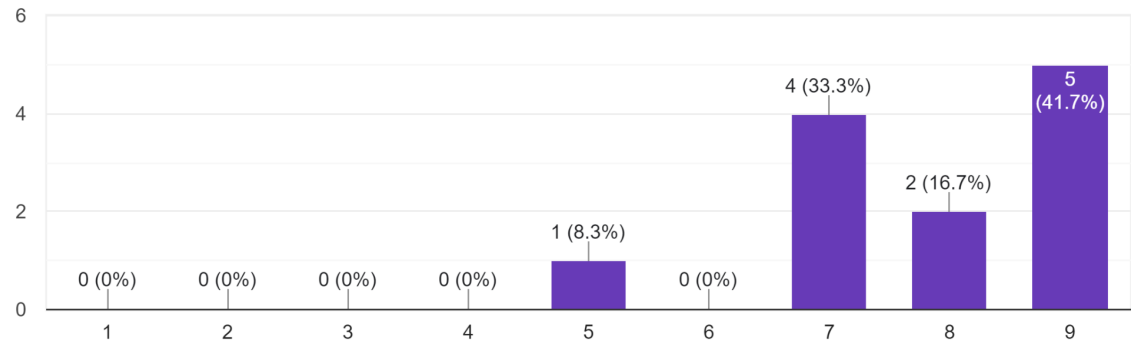
この研修全体について、
 次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ち...をそそられなかった、9...好奇心をそそられた)
 12件の回答



平均:8.25 標準偏差:1.16

研修2

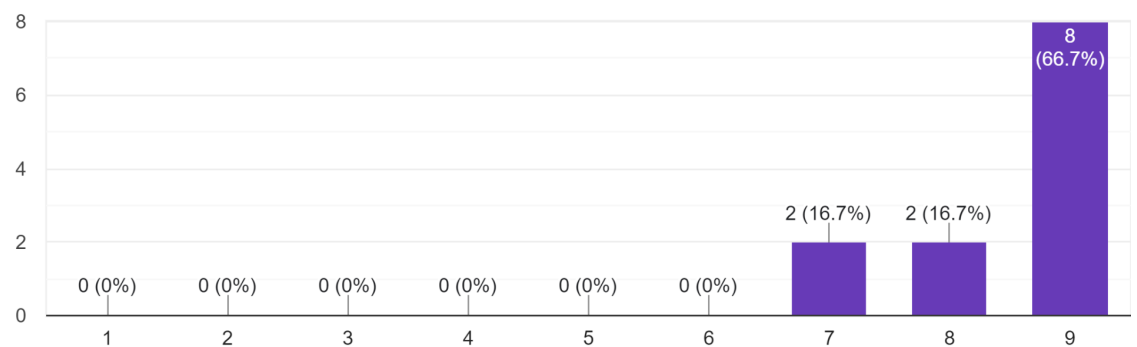
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持ち...をそそられなかった、9...好奇心をそそられた)
12件の回答



平均: 7.83 標準偏差: 1.21

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持ち...をそそられなかった、9...好奇心をそそられた)
12件の回答



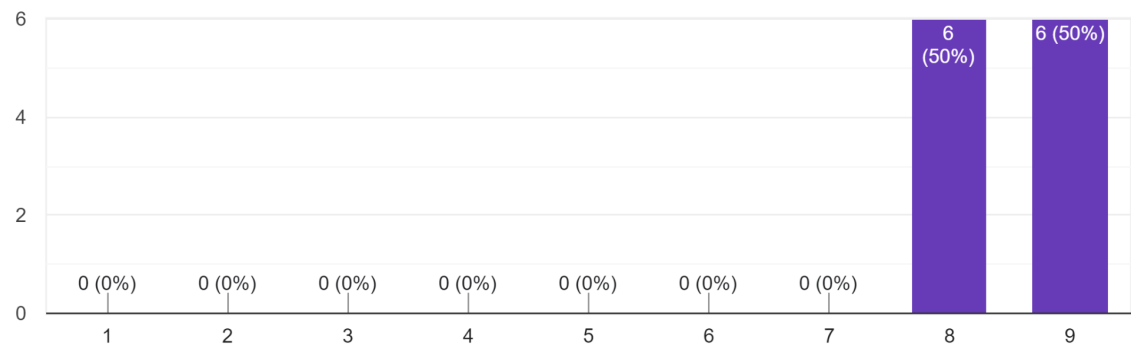
平均: 8.50 標準偏差: 0.76

(4)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...マンネリだった 9...変化に富んでいた)

研修1

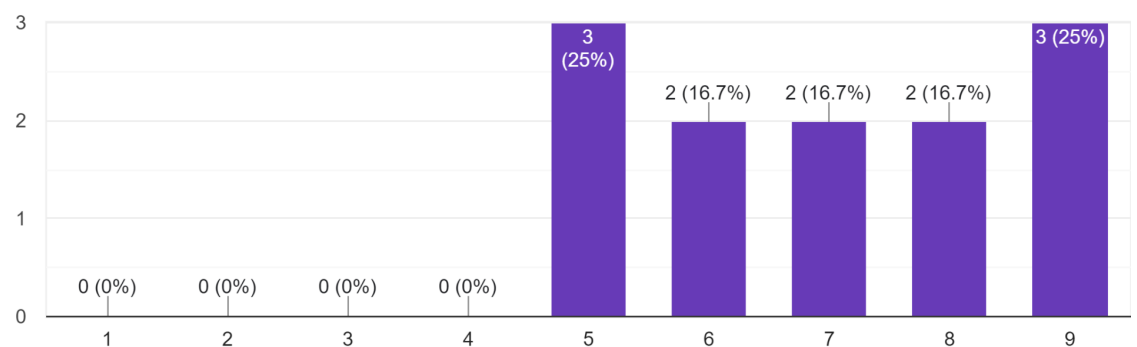
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま... (1...マンネリだった、9...おもしろかった)
12件の回答



平均:8.50 標準偏差:0.50

研修2

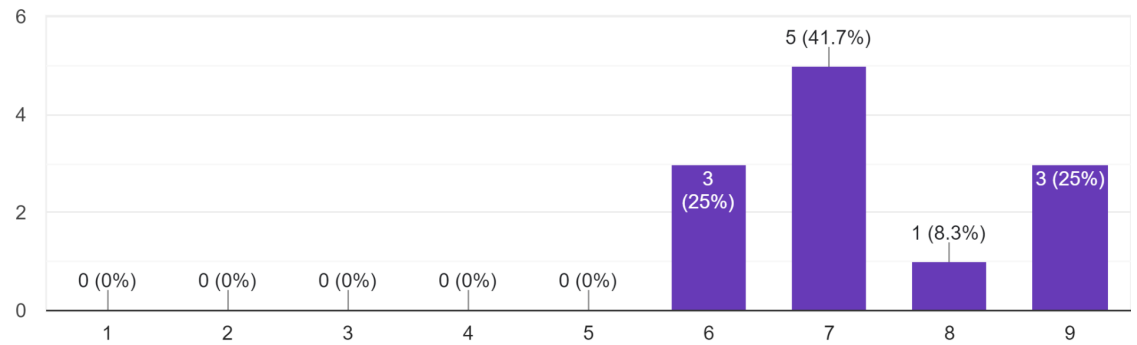
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま... (1...マンネリだった、9...おもしろかった)
12件の回答



平均:7.00 標準偏差:1.53

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちま...（1...マンネリだった、9...おもしろかった）
12件の回答

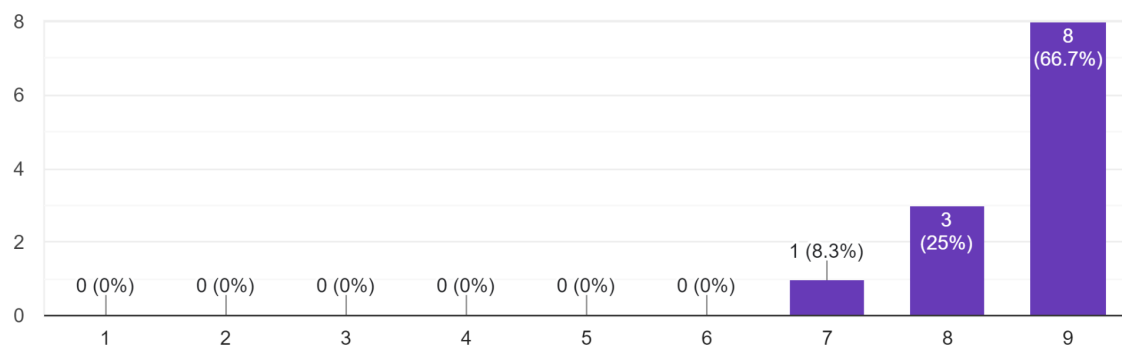


平均:7.33 標準偏差:1.11

(5)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。
(1...やりがいなかった 9...やりがいがあった)

研修1

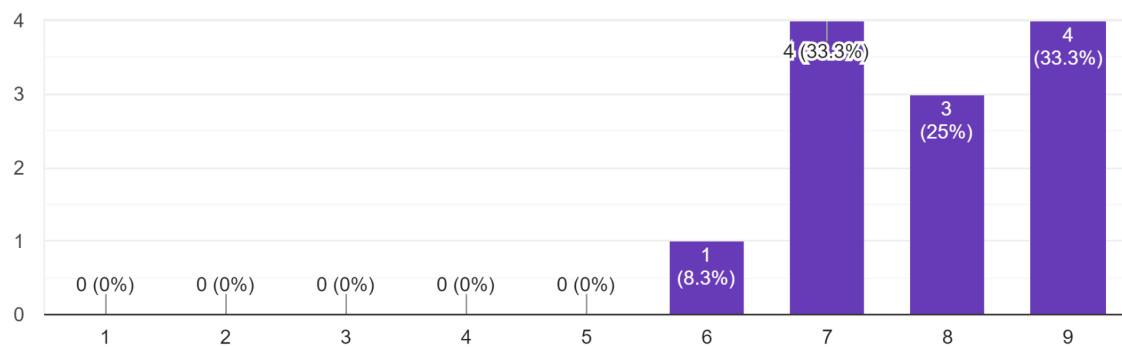
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均: 8.58 標準偏差: 0.64

研修2

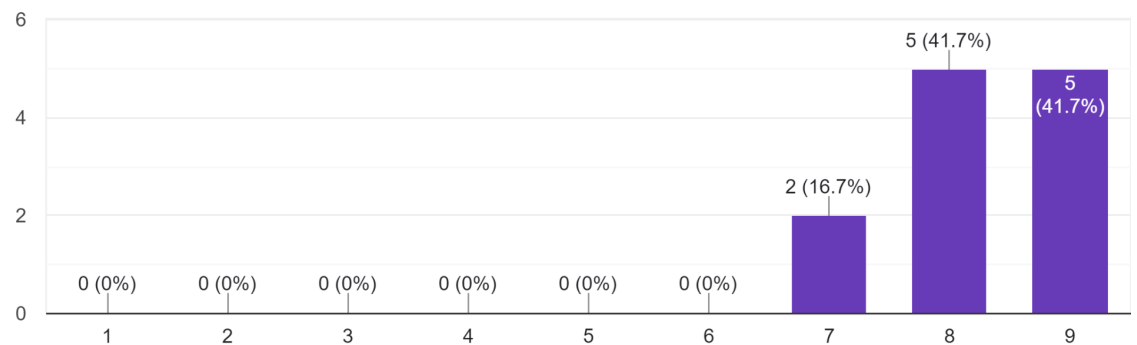
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均: 7.83 標準偏差: 0.99

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



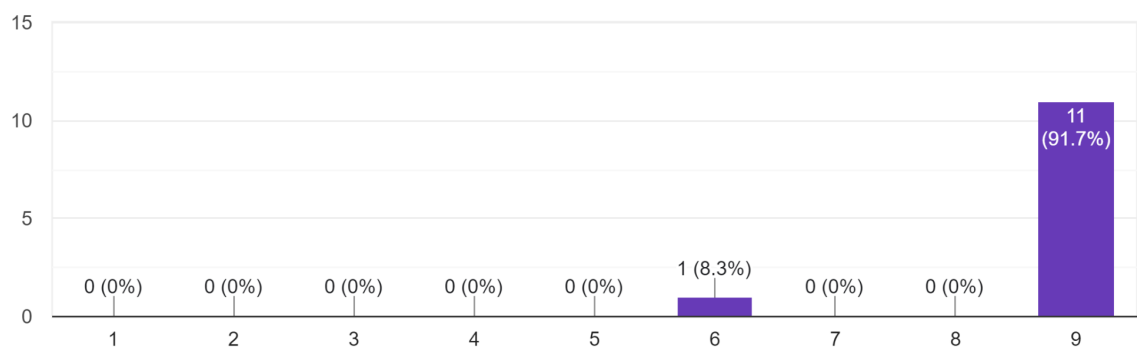
平均:8.25 標準偏差:0.72

(6)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...自分には無関係だった 9...自分に関係があった)

研修1

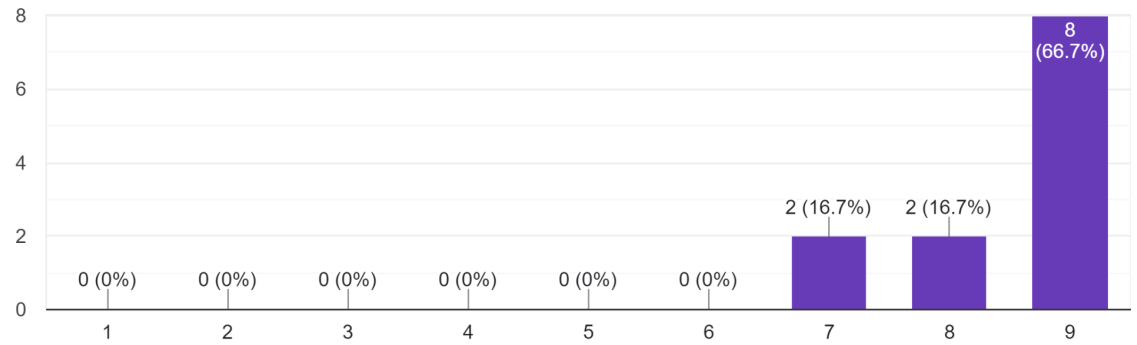
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.75 標準偏差:0.83

研修2

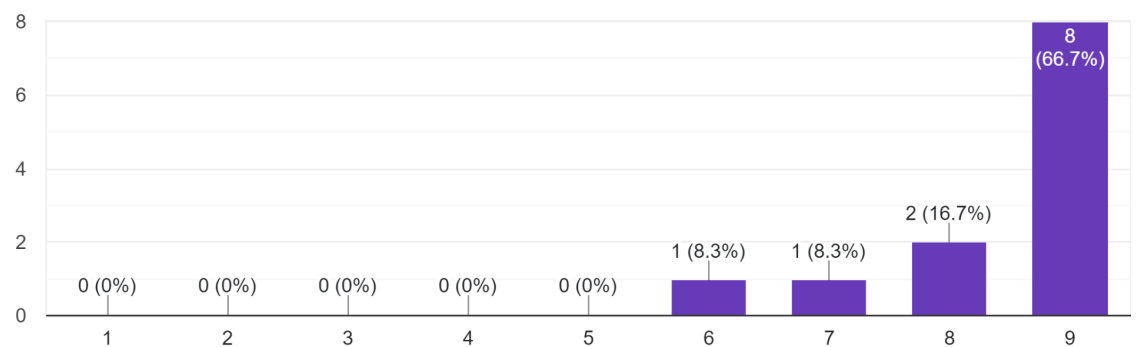
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.5 標準偏差:0.77

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答

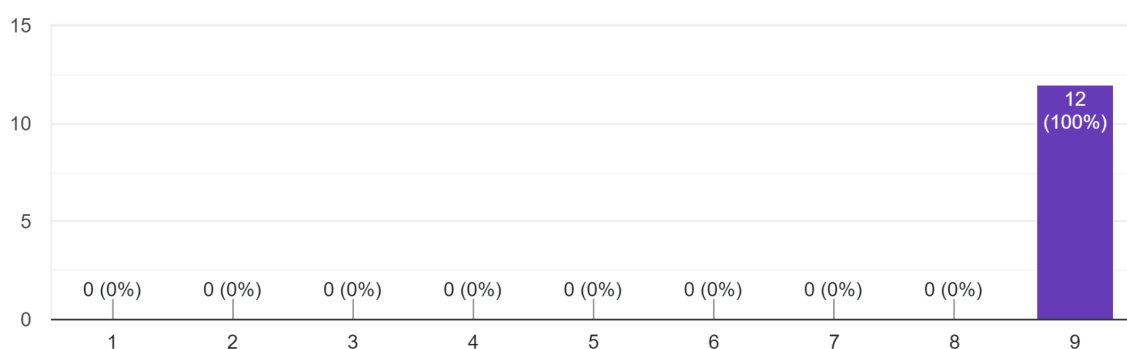


平均:8.42 標準偏差:0.95

(7)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。
(1...どうでもいい内容だった 9...身につけたい内容だった)

研修1

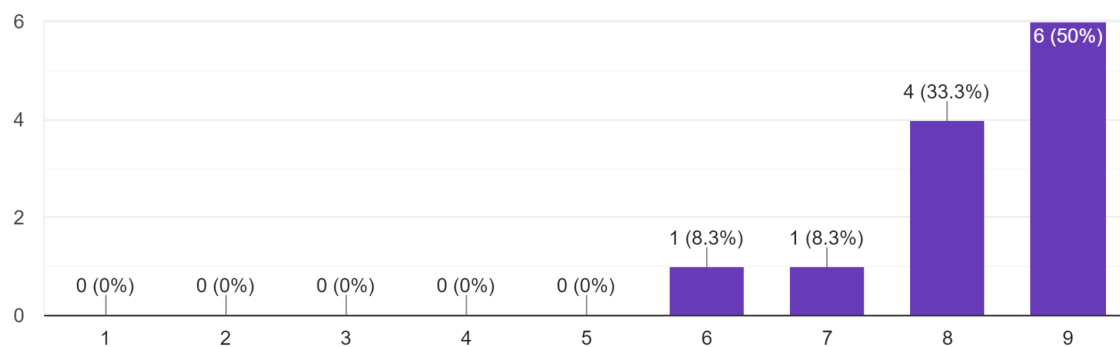
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:9.00 標準偏差:0.00

研修2

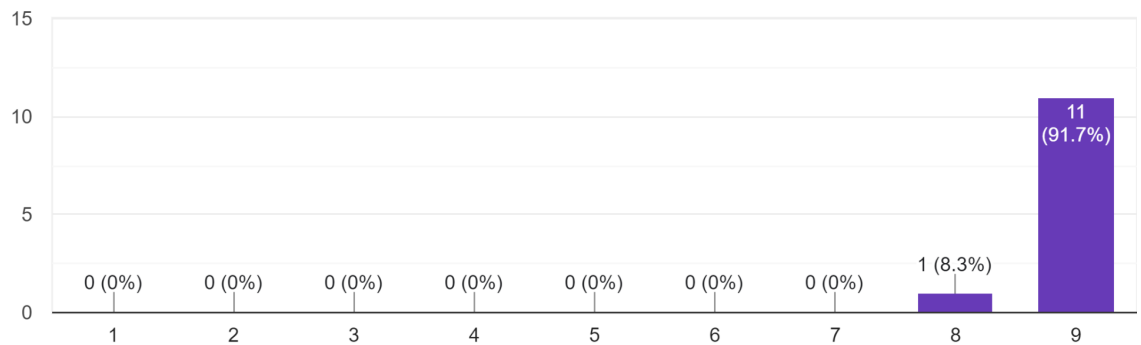
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.25 標準偏差:1.03

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



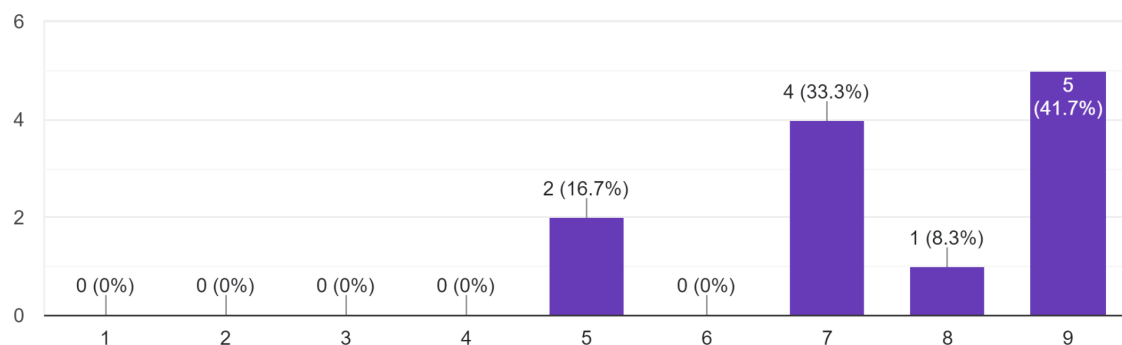
平均:8.92 標準偏差:0.28

(8)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのくらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...途中の過程が楽しくなかった 9...途中の過程が楽しかった)

研修1

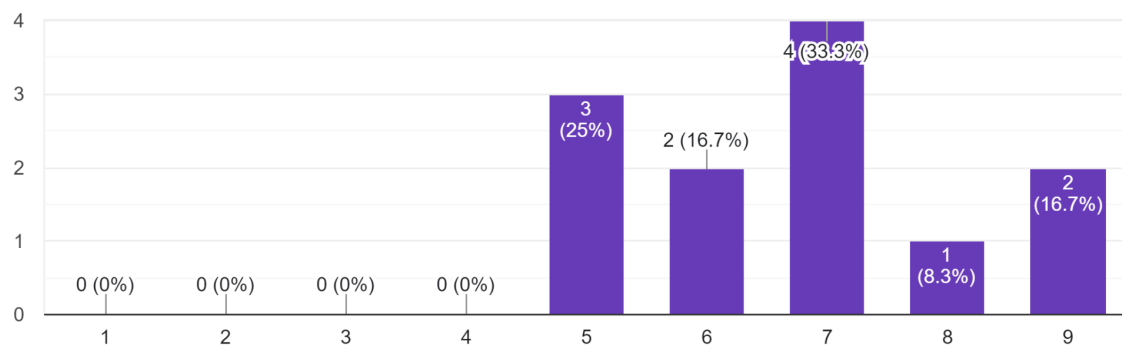
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均: 7.58 標準偏差: 1.44

研修2

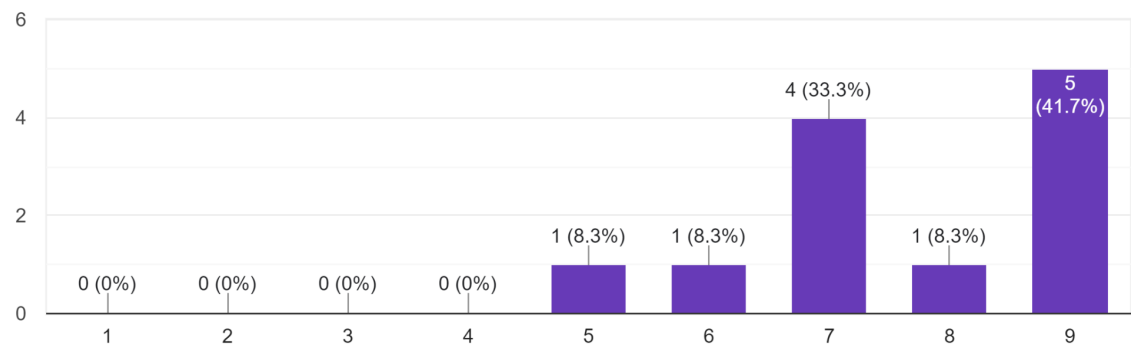
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均: 6.75 標準偏差: 1.36

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



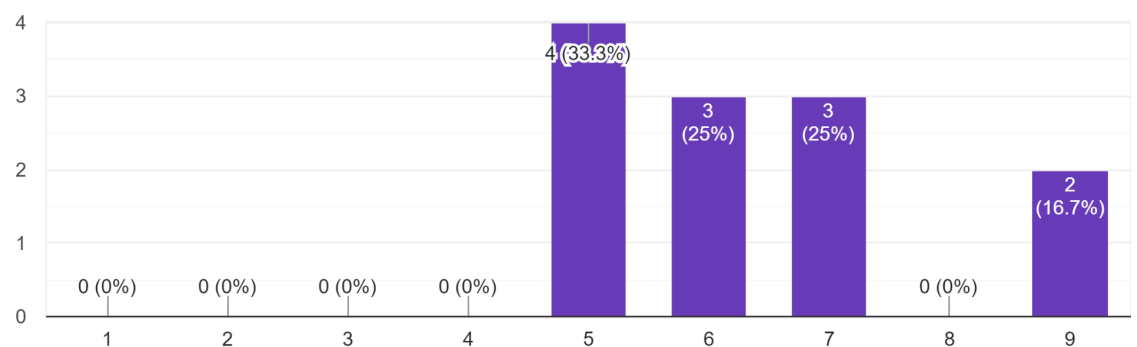
平均: 7.67 標準偏差: 1.31

(9)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...自信がなかった 9...自信がついた)

研修1

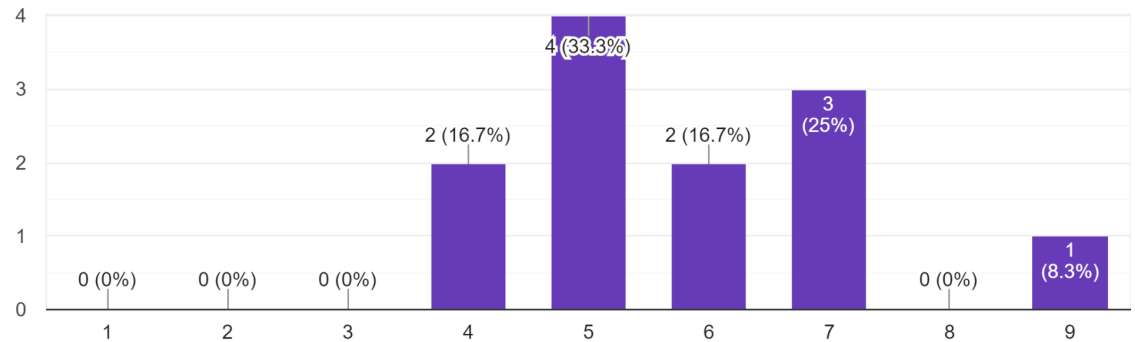
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均: 6.42 標準偏差: 1.38

研修2

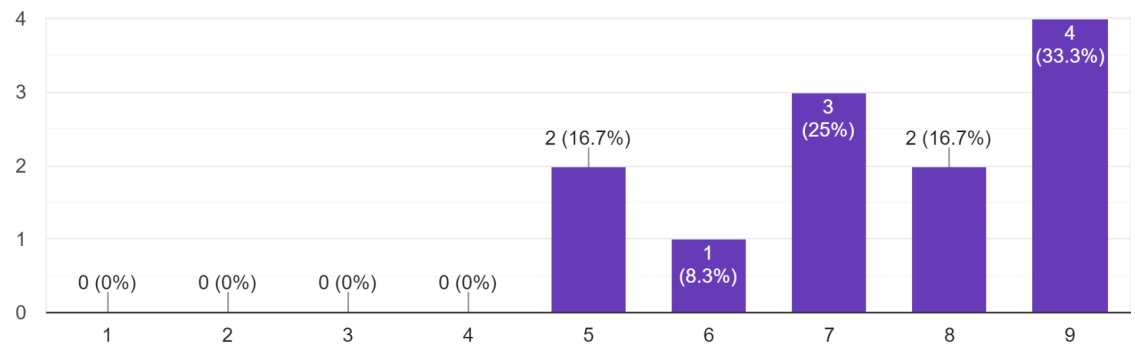
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均: 5.83 標準偏差: 1.40

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



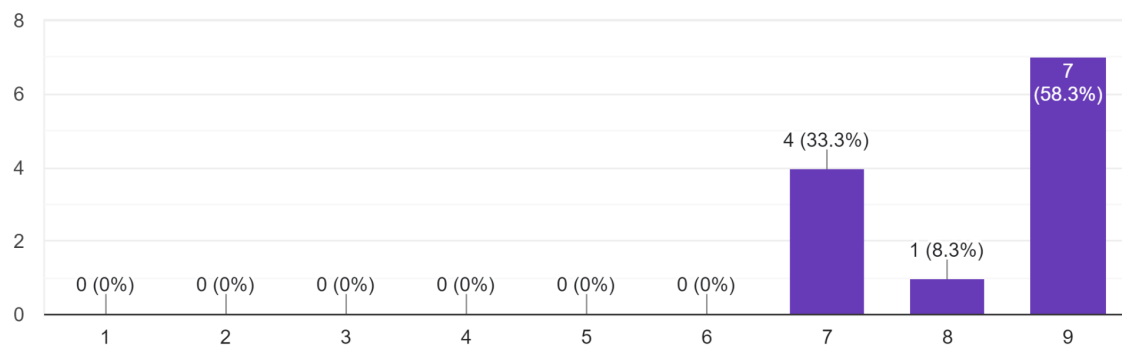
平均: 7.42 標準偏差: 1.44

(10)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちました
か？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...目標があいまいだった 9...目標がはっきりしていた)

研修1

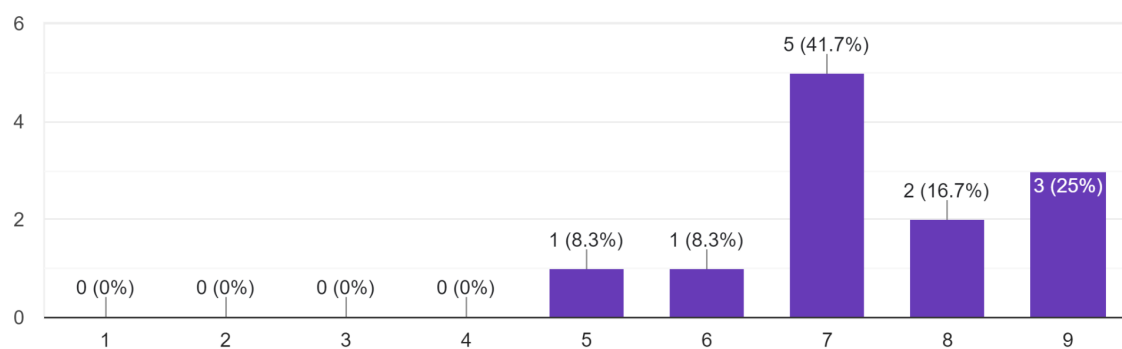
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.25 標準偏差:0.92

研修2

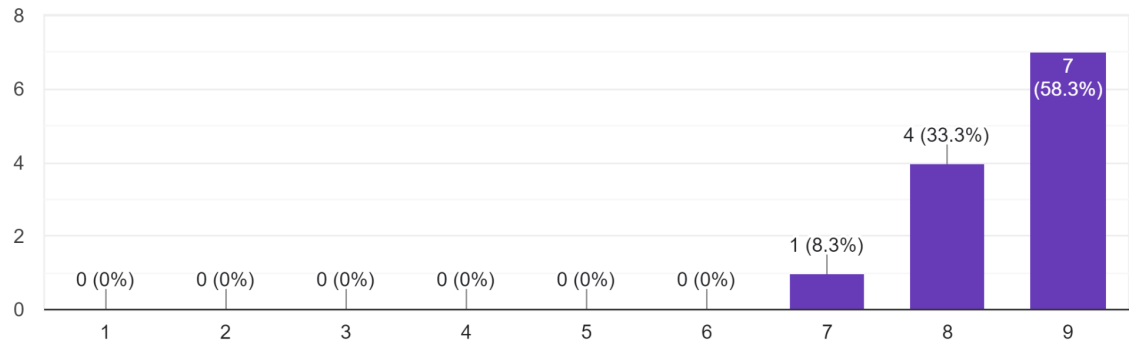
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:7.42 標準偏差:1.19

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



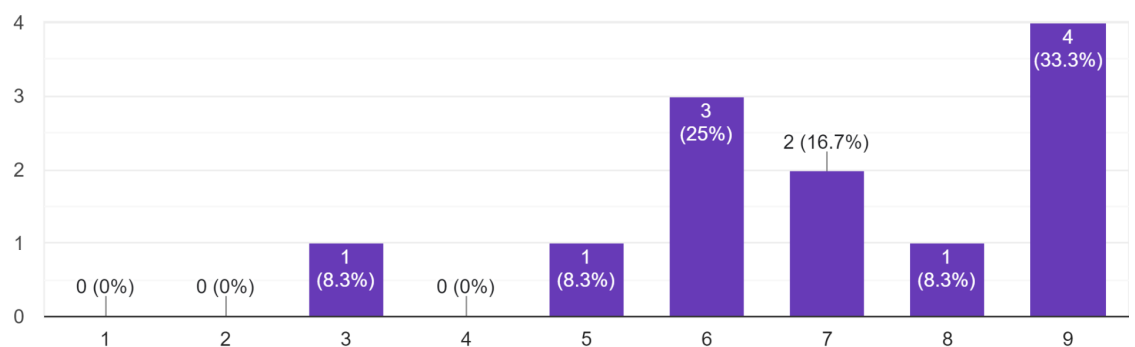
平均:8.5 標準偏差:0.65

(11)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...学習を着実に進められなかった 9...学習を着実に進められた)

研修1

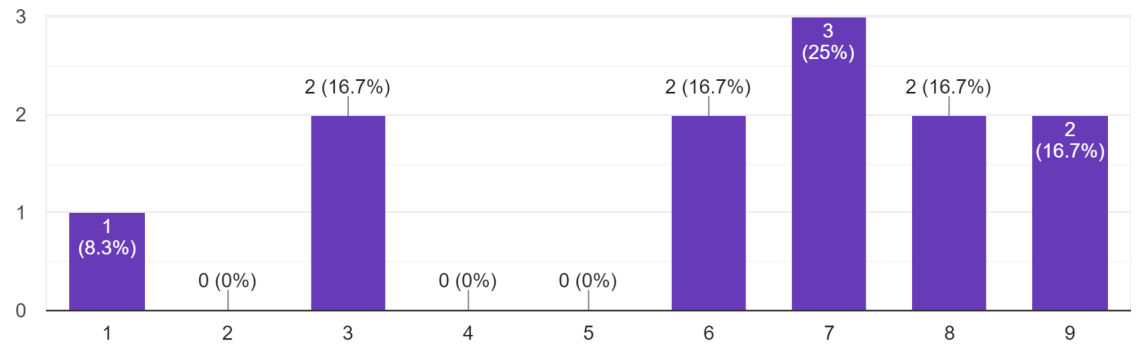
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:7.00 標準偏差:1.83

研修2

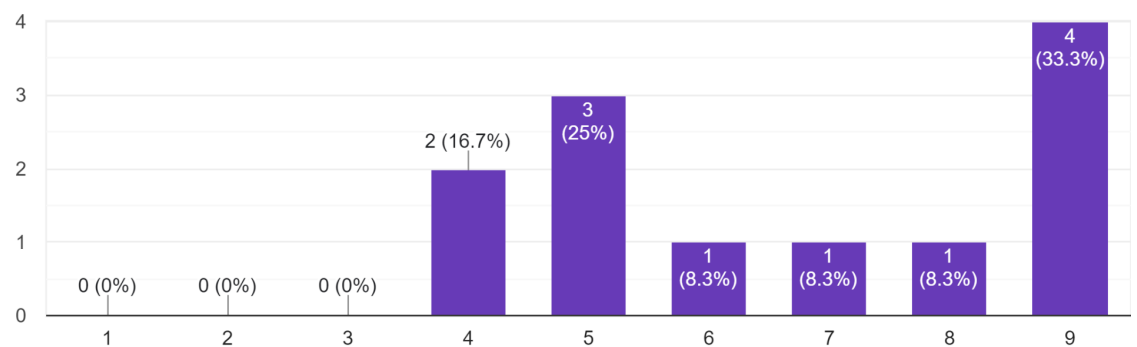
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均:6.17 標準偏差:2.44

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



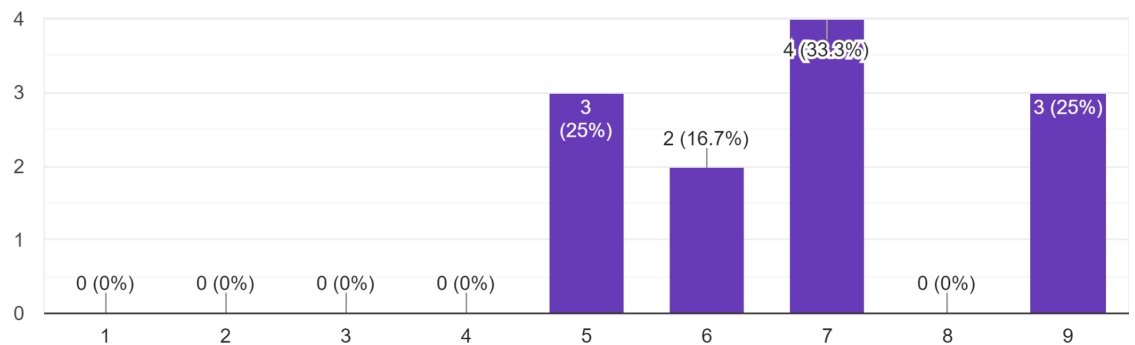
平均:6.67 標準偏差:1.97

(12)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...自分なりの工夫が出来なかった 9...自分なりの工夫が出来た)

研修1

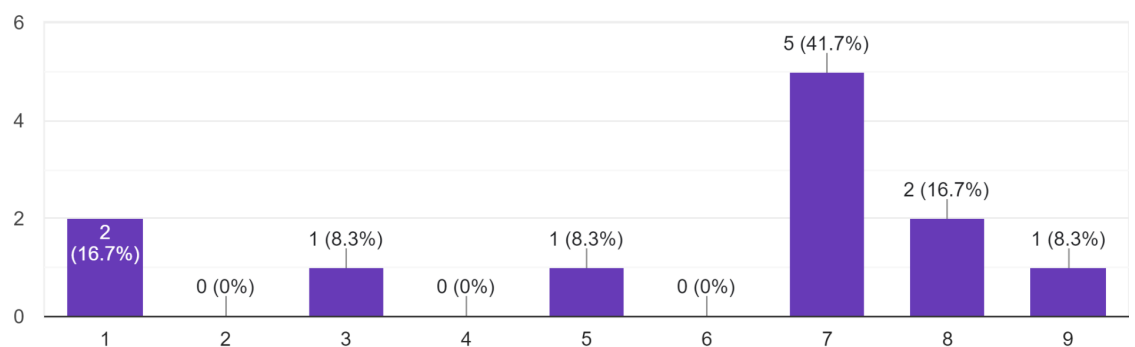
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:6.83 標準偏差:1.46

研修2

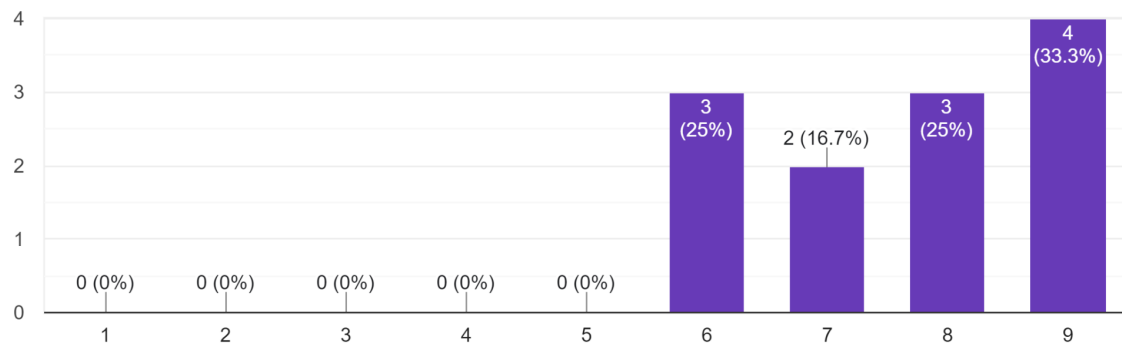
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:5.83 標準偏差:2.61

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均: 7.67 標準偏差: 1.18

(13)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちました

か？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

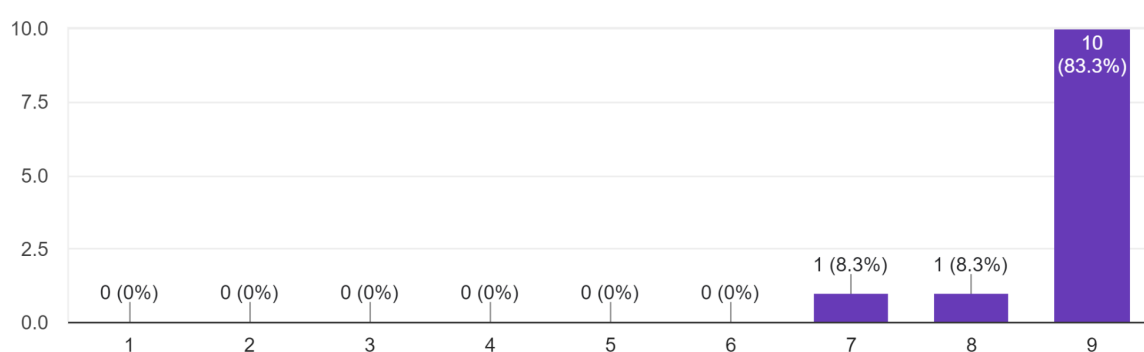
(1...不満が残った 9...やってよかった)

研修1

この研修全体について、

次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。

12件の回答



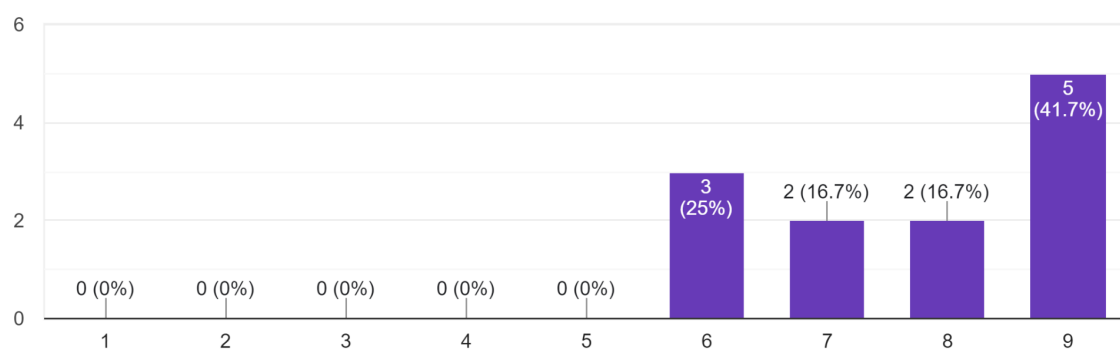
平均:8.75 標準偏差:0.60

研修2

この研修全体について、

次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。

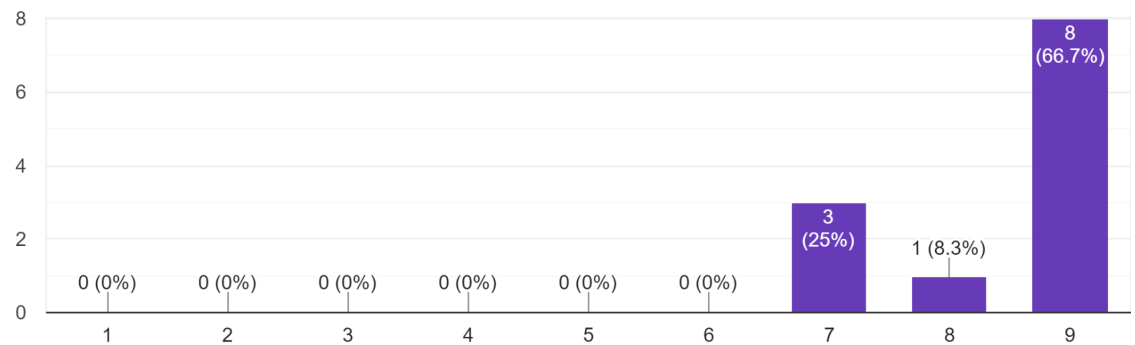
12件の回答



平均:7.75 標準偏差:1.25

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



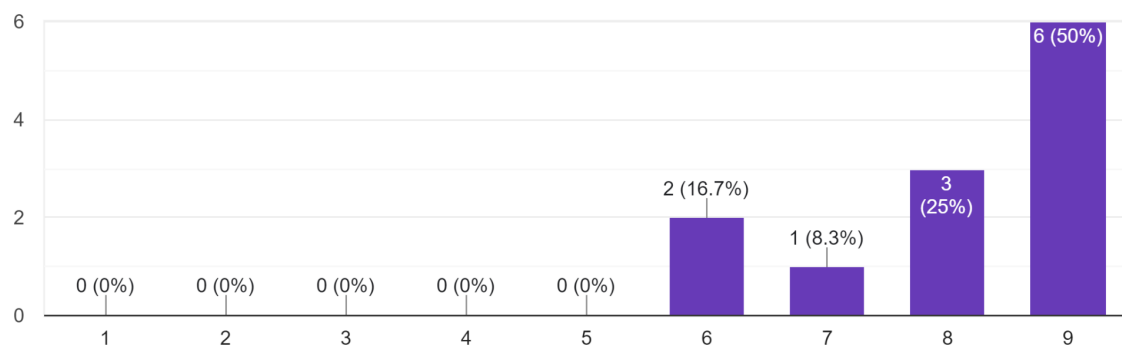
平均:8.42 標準偏差:0.86

(14)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのくらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...すぐには使えそうもない 9...すぐに使えそうだ)

研修1

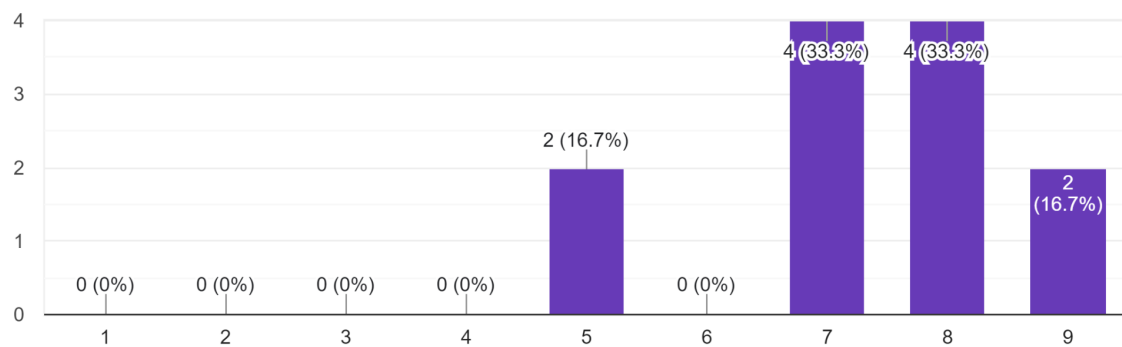
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均: 8.08 標準偏差: 1.12

研修2

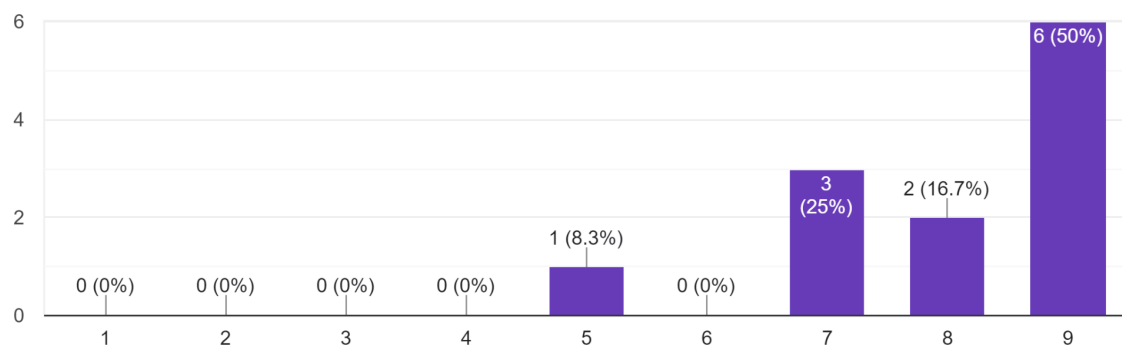
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12 件の回答



平均: 7.33 標準偏差: 1.26

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



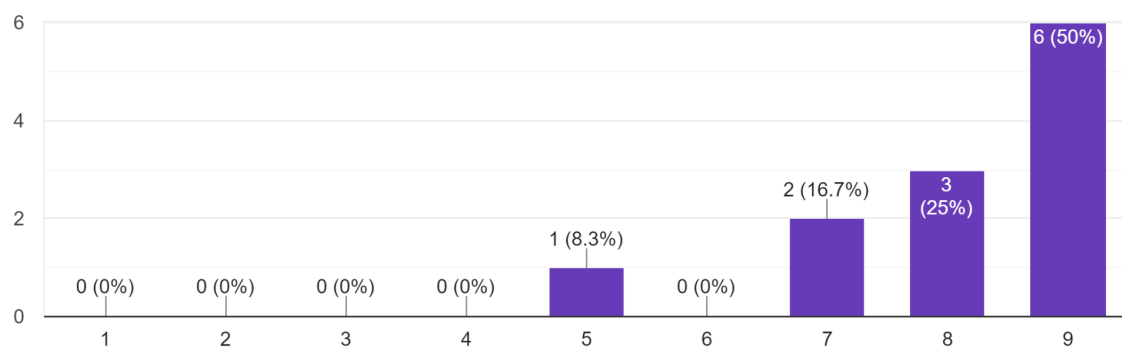
平均:8.00 標準偏差:1.23

(15)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...できても認めてもらえなかった 9...できたら認められた)

研修1

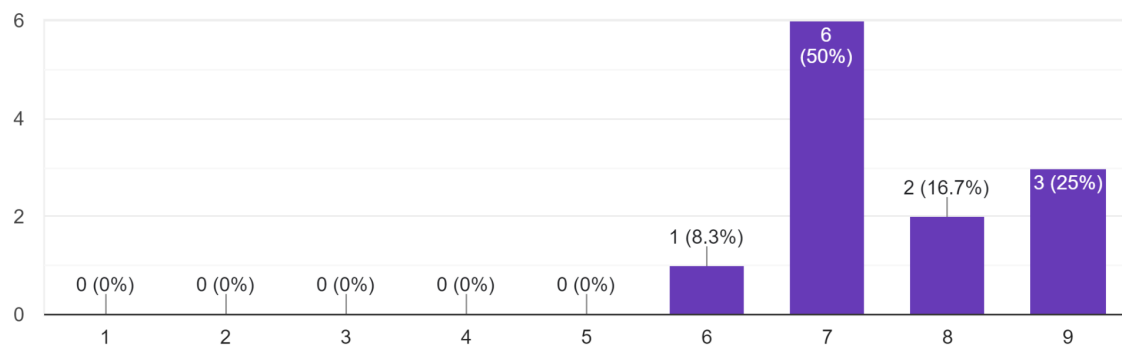
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持... 9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.08 標準偏差:1.19

研修2

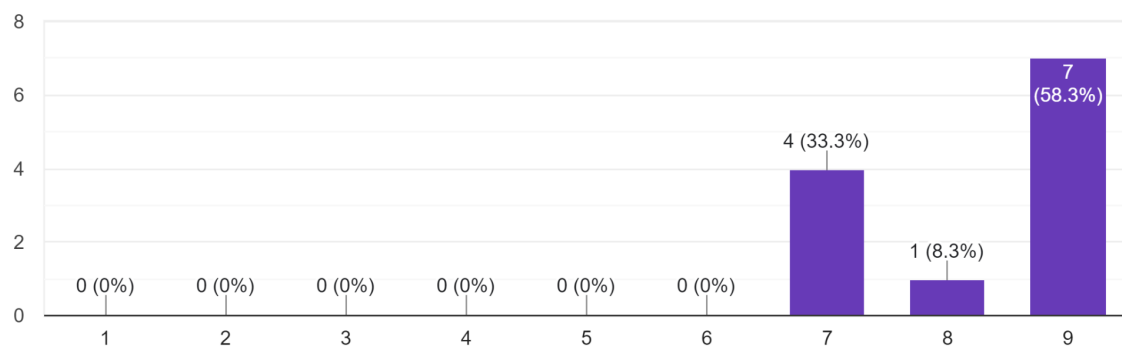
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:7.58 標準偏差:0.98

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのぐらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



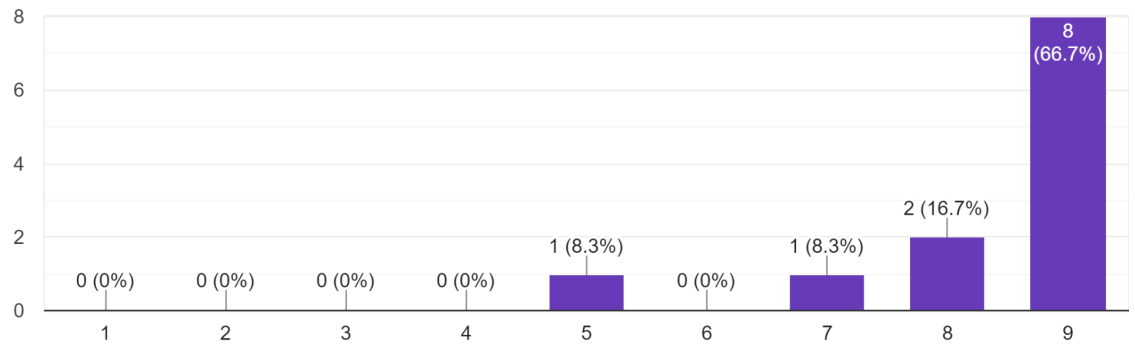
平均:8.25 標準偏差:0.92

(16)この研修全体について、次の状態のどちらかにどのぐらい近い印象を持ちましたか？ご自身の印象に最も近い番号を選んでください。

(1...評価に一貫性が無かった 9...評価に一貫性があった)

研修1

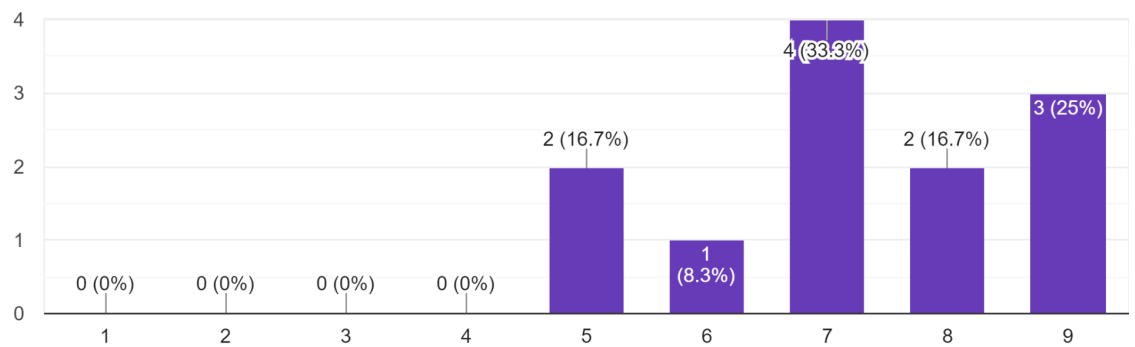
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.33 標準偏差:1.18

研修2

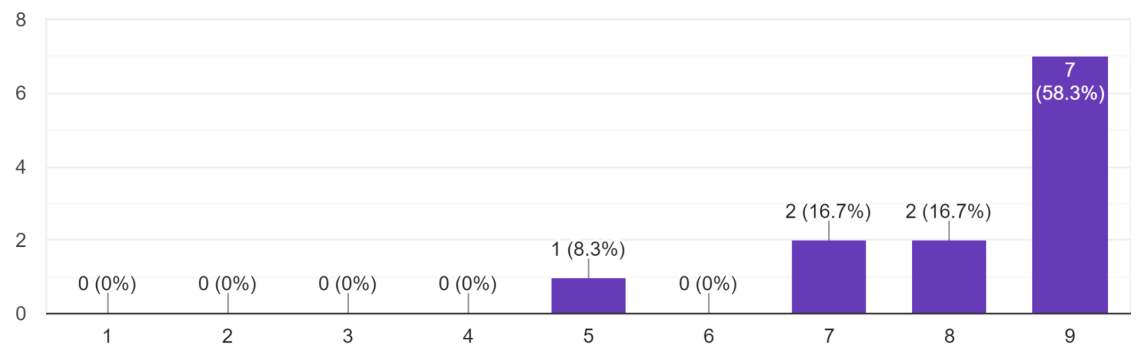
この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:7.25 標準偏差:1.36

研修3

この研修全体について、
次の形容詞のどちらかにどのくらい近い印象を持...9」までの数字ひとつにチェックしてください。
12件の回答



平均:8.17 標準偏差:1.21

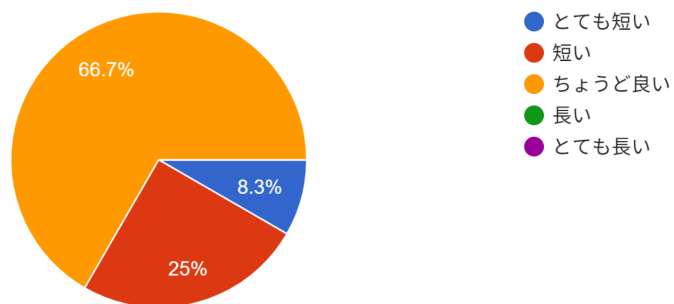
6-6-2. 研修の実施方法および内容についてのアンケート

2a. 今日の研修の長さはいかがでしたか。

研修1

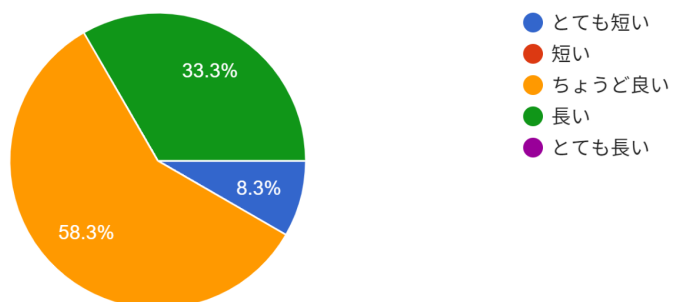
2a 今日の研修の長さ(3時間)はいかがでしたか。

12件の回答



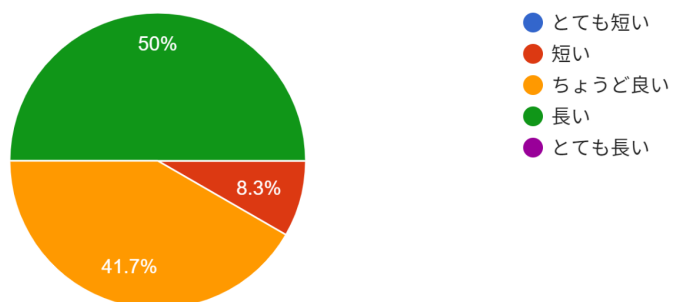
研修2

2a 今日の研修の長さ(3時間)はいかがでしたか。
12 件の回答



研修3

2a 今日の研修の長さ(3時間)はいかがでしたか。
12 件の回答

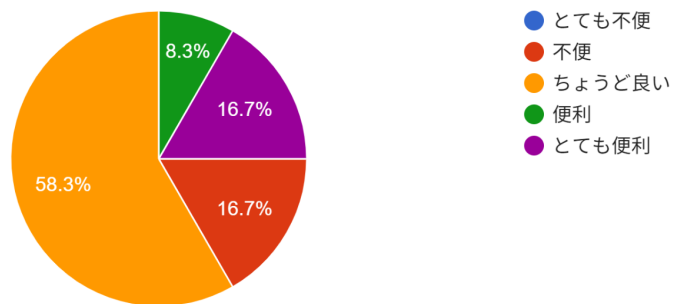


2b. 今日の開催場所はいかがでしたか。

研修1

2b 今日の開催場所はいかがでしたか。

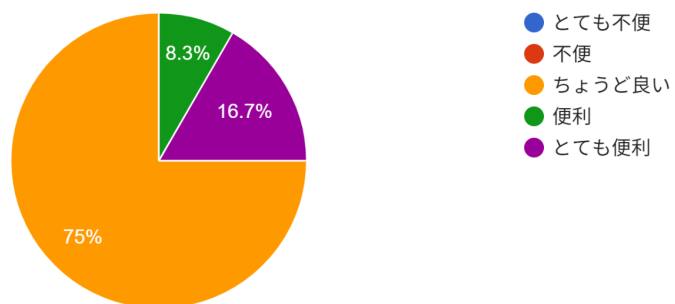
12 件の回答



研修2

2b 今日の開催場所はいかがでしたか。

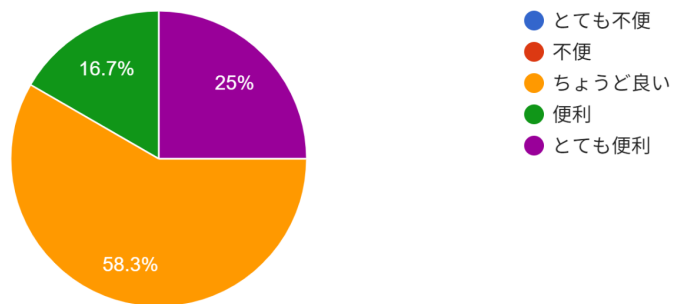
12 件の回答



研修3

2b 今日の開催場所はいかがでしたか。

12 件の回答

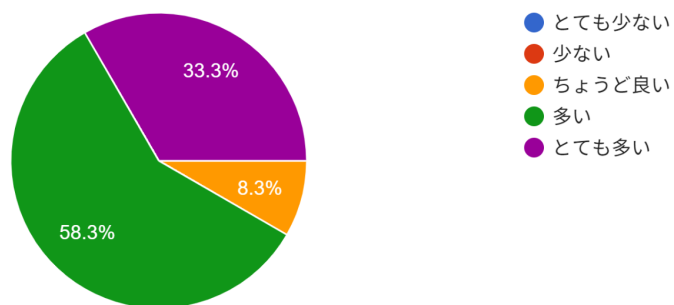


2c. 今日の研修の事前学習の量はいかがでしたか。

研修1

2c 今日の研修の事前学習の量はいかがでしたか。

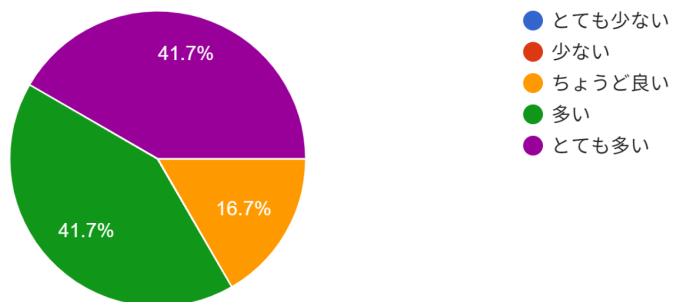
12 件の回答



研修2

2c 今日の研修の事前学習の量はいかがでしたか。

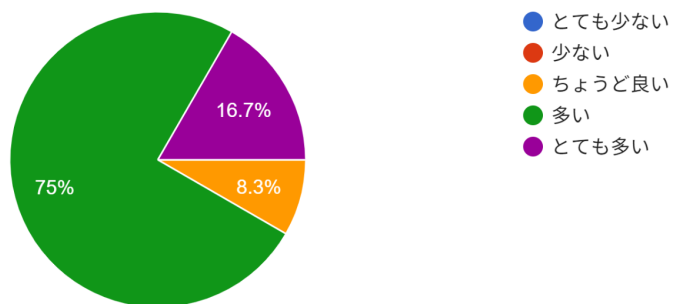
12 件の回答



研修3

2c 今日の研修の事前学習の量はいかがでしたか。

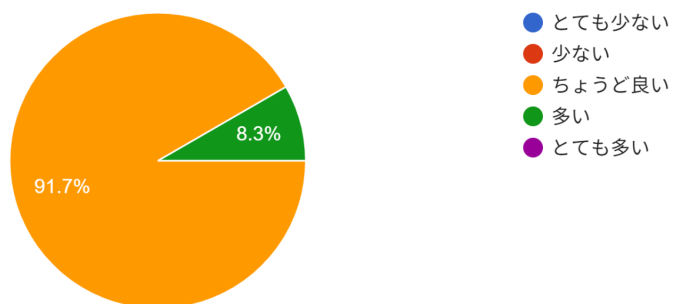
12 件の回答



2d. 今日の研修で扱った学習内容の量はいかがでしたか。

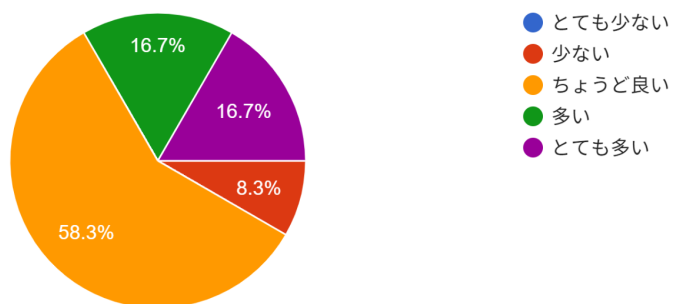
研修1

2d 今日の研修で扱った学習内容の量はいかがでしたか。
12 件の回答



研修2

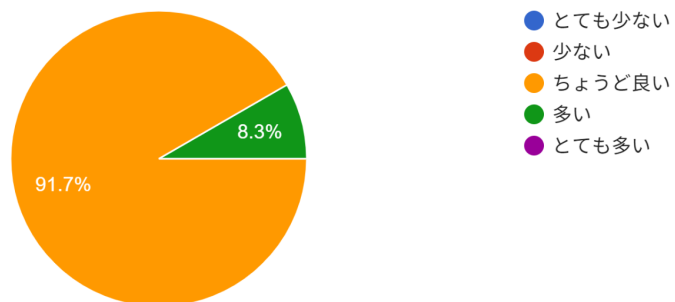
2d 今日の研修で扱った学習内容の量はいかがでしたか。
12 件の回答



研修3

2d 今日の研修で扱った学習内容の量はいかがでしたか。

12 件の回答

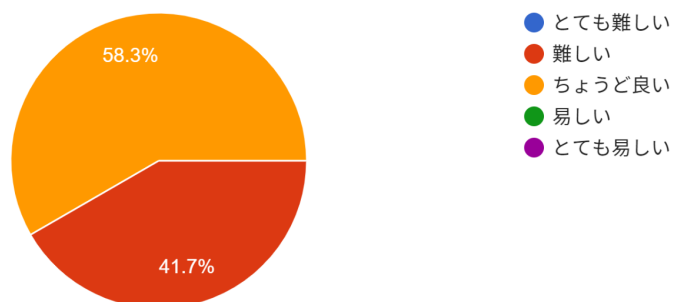


2e. 今日の研修で扱った学習内容の難易度はいかがでしたか。

研修1

2e 今日の研修で扱った学習内容の難易度はいかがでしたか。

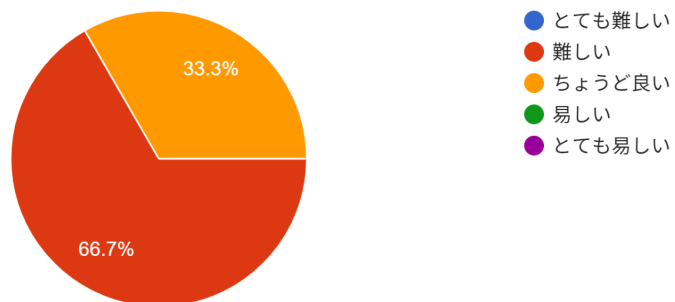
12 件の回答



研修2

2e 今日の研修で扱った学習内容の難易度はいかがでしたか。

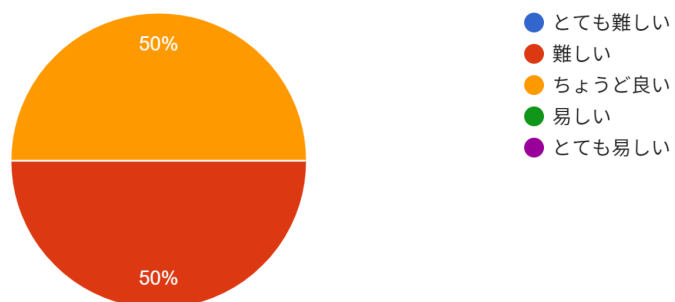
12 件の回答



研修3

2e 今日の研修で扱った学習内容の難易度はいかがでしたか。

12 件の回答

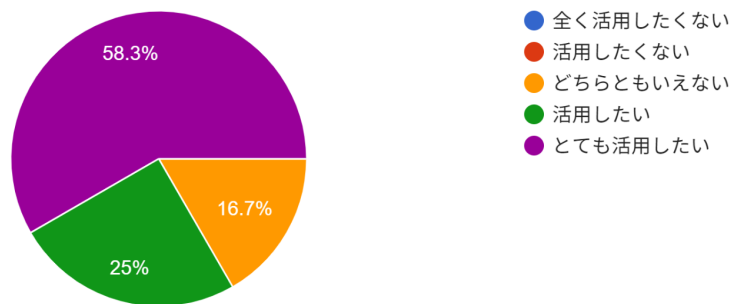


2f. 今日の研修で学んだ内容を自校の授業改善支援に活用したいですか。

研修1

2f 今日の研修で学んだ内容を自校の授業改善支援に活用したいですか。

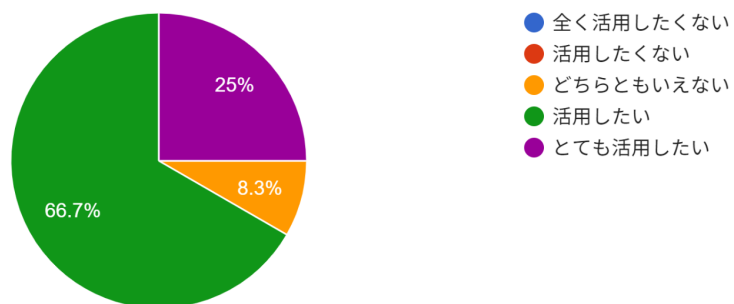
12 件の回答



研修2

2f 今日の研修で学んだ内容を自校の授業改善支援に活用したいですか。

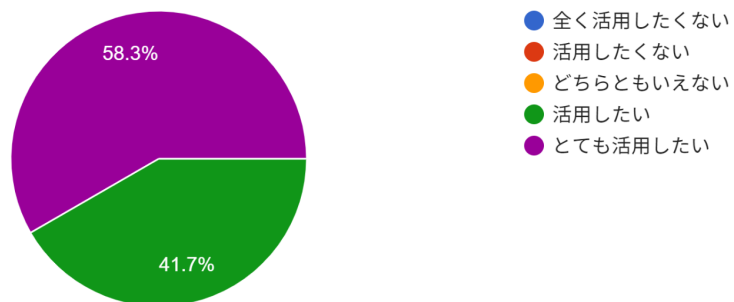
12 件の回答



研修3

2f 今日の研修で学んだ内容を自校の授業改善支援に活用したいですか。

12 件の回答

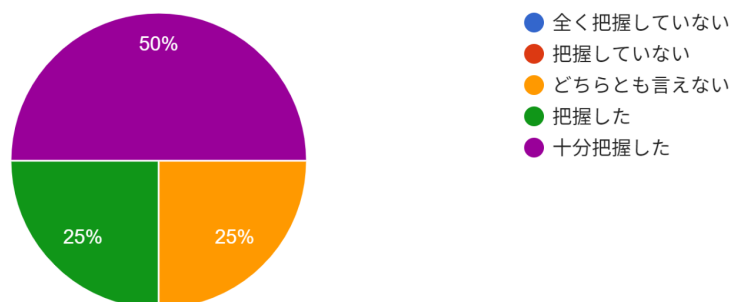


2g. 次回の研修までにやることを把握できましたか。

研修1

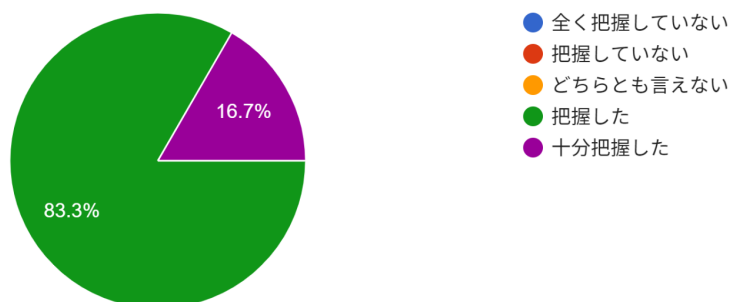
2g 次回の研修までにやることを把握できましたか。

12 件の回答



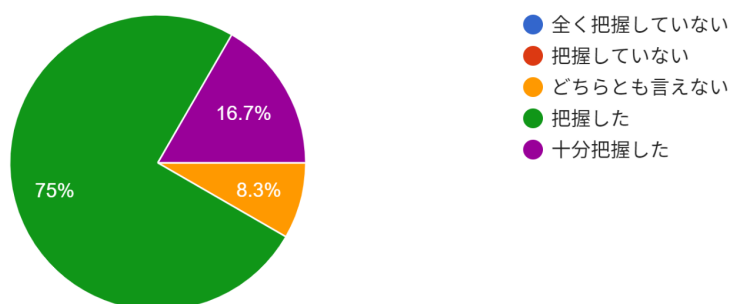
研修2

2g 次回の研修までにやることを把握できましたか。
12 件の回答



研修3

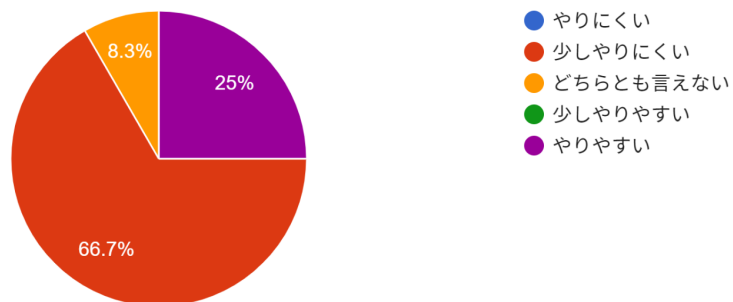
2g 最終課題として、やることを把握できましたか。
12 件の回答



2h. 学習管理システムの掲示板を使ってコミュニケーションをとることについてどう思いますか。

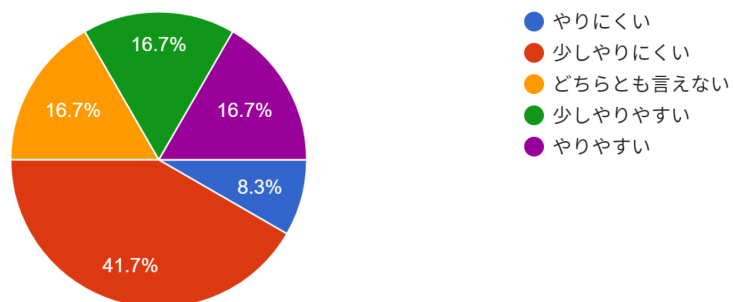
研修1

2h 学習管理システムの掲示板を使ってコミュニケーションをとることについてどう思いますか。
12 件の回答



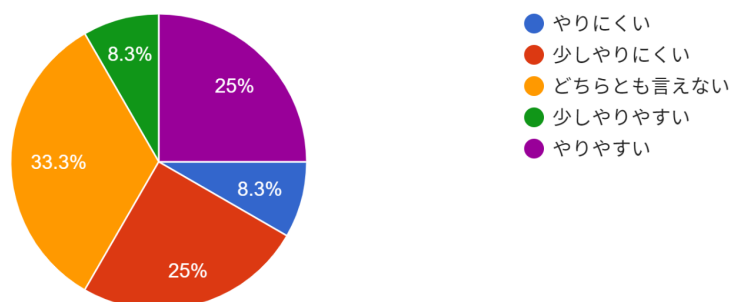
研修2

2h 学習管理システムの掲示板を使ってコミュニケーションをとることについてどう思いますか。
12 件の回答



研修3

2h 学習管理システムの掲示板を使ってコミュニケーションをとることについてどう思いますか。
12 件の回答



3. 今日の研修についてよかったと思う点を2つ以上書いてください。

研修1

他校の先生方との交流・情報共有の価値

- : 他校の先生と意見交換できたことを多くの方が挙げており、「同じ立場・近い悩みを持つ先生と会話がしやすい」
- 「沖縄という土地柄、他校の情報が得にくいため貴重な機会だった」
- 他校の取り組みや事例がとても参考になった、という声が多数見られた

事前課題や事前学習の有効性

- : 事前課題(事前学習)が研修内容と一致しており、当日のディスカッションがスムーズだった
- 事前課題をこなす過程で、自校の現状整理や改善点が見えた
- 課題が多く大変だったが、その分「当日の学びが深まった」「理解がしやすかった」と評価
- : 「急遽代理で参加したが、事前課題があまりわからない中でも問題なく参加できた」という声もあり、準備段階から研修当日までがうまく連動していた様子が見えた

研修の進行・学習環境

- : 少人数のグループワークで、質問や会話がしやすい。「短時間で主体的に活動し続けられ、飽きなかった」「今後に活かせるシーンをイメージしやすかった」
- : 他校の先生と対等に意見交換できる環境が好評
- : 講師(合田先生)の説明がわかりやすく、聞き取りやすかったため理解が進んだ、という声もあり、研修運営側の進行やサポートの面が評価された

学びの具体性・実践へのヒント

- : 新しい学びやヒントが複数あった、すぐに活用しやすい内容だった
- 「実際のシラバス改訂に取り組むきっかけが得られた」「専門学校DXへの道筋が見えた」など、各校での実践に役立つ示唆があった
- : 授業改善・サポーターとしての観点が得られた、自分の立場の理解を深められた

参加者の感想の総合的な傾向

- : 事前課題→当日のワークという流れで学びや理解が深まったとの声が多かった
- : 他校との交流や研修の進行のしやすさを高く評価する意見が目立った
- : 一方で「事前課題が多く途中不安だった」との声もあるものの、結果的に「学習・議論を充実させる要因になった」という前向きな捉え方が多く見られた

研修2

グループワークの多さとその効果

- : 他校の先生方や同じ分野の先生方との「意見交換」や「情報共有」が活発に行われた
- : グループでの話し合いにより、一人で考えるよりもスムーズに進んだ
- : 新しいグループのメンバーと話すことで、他校の実情や取り組みを知ることができた
- : 同じ分野の教員同士の交流が、次のアクションに繋がる具体的なアイデアを提供した
- : ブレイクアウトルームを通じた少人数のディスカッションが効果的だった

事前学習の有効性

- : 具体的な例題やわかりやすいシステム(例: noodle)が、事前学習の効果を高めた
- : 2回目の事前学習で、授業作成の案が数多く浮かび、事前準備の重要性を実感した
- : 事前学習→研修→課題という流れの中で、自己成長を実感したという声が多かった
- : 事前学習に基づいて、他校の先生方と意見交換が行われ、振り返りと具体的な次のステップが明確化した

他校の実践事例や進捗の共有

- : 他校の活動内容や実施事例を知る機会として非常に有益だった
- : 進捗状況の比較や共有が、自己の取り組みを振り返る契機となった
- : 他校の先生方の経験を参考に、授業改善やツール開発の方向性を見出せた
- : 新しい学校や学科の先生方の話を聞いたことが、視野を広げる切欠になった

次にやるべきことの明確化

- : グループディスカッションや情報共有を通じて、今後取り組むべき課題が明確化した
- 」自校の状況に合わせて、授業改善のブラッシュアップを進める意識が醸成された。

専門家の支援とモジュールの補足説明

- : 専門家からの講義や補足説明が学びを深めた
- : モジュールの内容が整理され、活用方法が具体化された
- : 専門家の説明に感謝し、学びを自校に活かしたいという意欲が見られた

参加者の感想の総合的な傾向

- : 他校や他分野の先生方との交流が、新たな学びや刺激を生み出した
- : グループワークや事前学習を通じて、振り返りや課題の整理が進んだ
- : 授業改善やツール開発のヒントを得る場として評価が高かった
- : 専門家や他の先生方の意見を取り入れ、次回までの改善意識を高める姿勢が見られた

研修3

他校との交流・情報交換の価値

- : 他校の先生方と意見交換を通じて、取り組み事例や具体例を把握し、多くのアイデアを得る機会になった
- : 対面研修があったことで、人間関係の構築がスムーズに進み、オンラインでの交流も活発化した
- : 情報交換や意見交換をきっかけに、新たな学びと実践に繋がる刺激を受けたとの声が多かった

グループワークとツール共有の重要性

- : グループワークを通じて、他メンバーの取り組みや課題を知ることができ、自身の課題も明確になった
- : 他のグループが開発したツールが興味深く、共有場所や使用方法について更なる情報を求める意見が挙がった。
- : 自分たちが作成したツールへのフィードバックを受け、改善点を認識できたことが大きな学びになった

モジュールとID実践の活用

- :モジュールの具体例や勉強ツールが非常に参考になり、授業改善や他の職員のサポートに役立つ
- :インストラクショナルデザイン(ID)の実践知識を活用し、今後も授業改善に取り組む意欲が高まった

研修形式と今後への期待

- :対面とオンラインのハイブリッド形式が、効果的なコミュニケーションを支えたとの意見があった
- :研修後のフォローアップや更なる講座(例:合田先生の授業)への期待が寄せられている
- :「研修後が肝心」との声が多く、継続的な学びや実践を意識した取り組みを望む姿勢が見られた

4. 今日の研修について、今後は改善できると思う点を、具体的にどのようにすればいいかという提案とともに、2つ以上書いてください。

研修1

研修運営・時間配分の改善要望

- :ディスカッションの時間をもう少し長く(各グループ5分程度追加)ほしい
- :一部のモジュール共有やシラバス反映に、さらに10分ほど欲しかった
- :1日～数日かけた対面での研修を希望する声もあった

事前学習・教材構成のわかりやすさ

- :事前学習の量が多く、驚いたという意見が複数あり、量と負担感への配慮が求められる
- :LMS(学習管理システム)のコンテンツ配置・連絡手段が多岐にわたり、どこまで進めればいいのか分かりにくかった
- :「インストラクショナルデザイン」などの専門用語の定義を確認しながら進められるとより理解しやすい

グループワーク・情報共有の工夫

- :印刷や画面共有の活用などで、事前学習課題をグループ内で見せ合えるようにしてほしい
- :グループの分け方について、ビジネス系と情報系で分けるなど、内容に応じた分類があると話しやすい
- :Google スプレッドシートなど、オンライン共同編集がしやすい環境を活用してほしい

研修2

研修運営・時間配分への要望

- :研修内容のボリュームに対して時間が不足し、駆け足になりがちだった
- :ディスカッションや次にやることを確認する時間をもう少し確保してほしい

:「研修の間隔をもう少し空けたい」、あるいは「年末の繁忙期を避けたい」など、実施時期の検討を望む意見があった

:対面での実施を希望する参加者が多く、情報交換や意見交換の機会を増やしたいというニーズが見られた

教材・資料のわかりやすさ・共有方法

:事前課題で使用する言葉や概念が分かりにくいので、例や定義の提示が欲しい

:研修内でグループワークをする際、視覚的な資料や画面共有などを使って指示を明確にしてほしい

:オンライン共同編集(Google スプレッドシートなど)を活用することで、他の人の入力や意見が見やすいとの要望があった

:LMS上のコンテンツ配置や連絡手段が複数あり、何を・どこまで進めるかが分かりにくいという指摘があった

グループ分け・コミュニケーションの工夫

:学科や分野を考慮したグループ編成(ビジネス系と情報系など)で話しやすくする方法の提案があった

:前回のグループのメンバーと引き続き連絡を取りたいが、機会が少ないという声があった

:対面での交流やディスカッション時間を増やすことで、より深い情報交換を望む意見が多かった

実践的な活用・今後のアクション

:提出した課題に対して、講師の先生から個別フィードバックをもらえると助かるとの要望があった

研修3

研修運営とツールの改善要望

:ブレイクアウトルーム移動後に指示が見られなくなったり、話す時間と書く時間が分かれておらず、進行に迷う場面があったとの声があった

:グループの構成を変更したり人数を増やすことで、より多様な意見を得られる環境を期待している

:使用ツールについて、LINEよりもメールやGoogle Classroomなどの方が使いやすいという意見が複数あった。

年末研修の負担感とタイミング調整

:年末の忙しい時期に研修が行われたため、参加が大変だったという声があった

:忙しい時期を避けたスケジュール調整が求められている

質疑応答や具体例の充実

:各モジュールでの具体例や実践例をもっと知りたかったとの要望があった

:質疑応答の時間を増やし、他の教員の実践経験を共有できる機会が欲しい

:グループディスカッション中に、現在協議している内容を常に表示する仕組みがあれば便利との提案があった

5. 次回(研修2、3)に期待すること、やってみたいことを教えてください

研修1

他校の事例共有・情報交換への期待

：研修に参加した学校同士で、授業改善の進捗や成果を共有・発表してほしいとの要望があった

：他校の取り組みやさまざまな手法、その結果を聞きたいという声が多く、他のグループの方とも交流の機会を増やしてほしいとの希望が挙がった

自校への実践・フィードバック

：学んだ内容をどのように自校で活用していくか、具体的なアクションを検討したい

：研修の内容を教員間や上長と共有し、組織として取り入れる動きがあった

：学校全体としてシラバスや授業のあり方を見直し、フィードバックや改善を継続したい。

インストラクショナルデザインなど基礎知識の再確認

：インストラクショナルデザイン(ID)を学んでから時間が経っており、基礎を織り交ぜた進行を望む意見があった

：授業設計やシラバス構成など、理論を再確認しながら進めるとより理解が深まりそうだという要望があった

次回研修・学習へのモチベーション

：引き続き他の先生方や専門家から知識を吸収し、実践に繋げたいという強い意欲が見られる。

研修2

ツール作成と実践への期待

：ツールを実際に授業で使用したい、あるいは他の先生が開発したツールを活用してみたいという声が多かった

：「次年度以降、学校全体で授業改善を進めるために、今後活用可能なツールを作りたい」といった具体的な意欲が見られた

：「自分のグループで作成したツールの運用アドバイス」や「他グループのツールの共有」など、お互いの成果やノウハウを交換し合うことを望む声も上がった

他校・他グループとの情報交換・共同作業

：他の研修参加者の開発ツールや取り組み事例を参考にしたいという希望があった

：「意欲のある先生方との議論」による、アイデアやノウハウの共有を期待している

：自校に適用できそうなアイデアを「他グループから得たい」という発言もあり、グループ間の交流を深めたい想いがうかがえた

研修での取り組み方・習熟度の共有

：自分の習熟度と他の参加者との習熟度を比較しながら、余裕をもって課題に取り組みたいという声があった

：難しいテーマながら、「他の先生の進め方を知りたい」「意欲を高めあいたい」など、互いの進捗や課題観を共有したいという声があった

：「どのようなツールが生まれるのか楽しみ」「IT系の知識を活かしてワクワクしている」といった前向きな姿勢が多かった

今後の研修・実践への展望

：研修3(最終回等)に向けて、「各グループが開発したツールの発表と、講師の先生の意見を楽しみにしている」という期待があった

：今回の講習内容を踏まえ、実践を行うことで、次回までに成果や課題を持ち寄りたいという思いが示されていた

：「研修内ですべて行うのは難しいかもしれないが、興味・関心のある先生同士で情報交換を続けていきたい」という意欲がうかがえた

研修3

N.A.

6. その他、受講生として感じたことや思ったことを自由にご記入ください。

研修1

事前学習の意義とボリューム

：事前学習の内容が「大変よくできている」「明日から使える内容で興味深い」と高い評価

：一方で「ボリュームが多い」という声もあり、研修回数を増やして理解促進を図るなどの工夫が望まれる

：事前学習を通じて改めて、自校や自身の授業を整理・振り返る機会になったとの意見が目立った

他校との情報共有・コミュニケーション

：対面での受講により「他校の先生としか得られないコミュニケーションが図れた」という評価

：同じような悩みや課題を抱える先生方の事例を知り、気づきや意欲向上に繋がった

：シラバスや授業アンケートなど、具体的な情報交換ができたことに満足感を示す声が多かった

研修内容の活用と効果

：研修で扱われた内容が、自校での授業改善や後輩職員の指針作成などに活かせると期待している

：言語化された資料がそのまま新人指導に使えるなど、即実践に移しやすい内容と感じる参加者が多かった

：専門学校DXの取り組みに対して、業界全体の情熱を感じ、今後も研修内容を活かしていきたいという前向きな意見があった

今後への要望・展望

：「もう少し多くの方に参加してもらいたい」という声や「研修回数の増加」など、規模・回数への期待があった

：「対面実施の緊張感はあるが、やはり直接会って得られる情報交換に大きな価値を感じる」という参加者の声があった
：少子高齢化社会の課題を踏まえた専門学校の役割や、DXを通じた業界の活性化に貢献したいという意欲が示されている

研修2

他者との交流と学びの深まり

：他校や他の参加者との対話を通じ、アイデアが浮かんだり、相互刺激になったとの声があった
：「講師の人柄のおかげで安心して参加できた」「他の先生方の日常業務や授業を見学してみたい」という要望もあり、さらなるコミュニケーションの機会が期待されている
：教員間のコミュニケーションが活性化し、自身の授業改善にもつながる実感が得られた

研修形態と時間配分に対する要望

：グループワークや質疑応答の時間が短く、「もう少し話したかった」「疑問点を解消する時間が足りない」という声があった
：時間配分を工夫し、話を途中で終わらせないようにしたいという参加者自身の反省もあった
：年末や後期授業中は忙しいため、1～3月など余裕のある時期に研修を希望する意見も見られた

事前課題・事後課題への取り組み

：日々の業務と並行した課題は大変な一方、実際に取り組むことで授業改善や教員間の連携が進み、「やってよかった」との声が多数だった
：事前課題に十分取り組めなかったという反省や、タイミング・量を調整してほしいという要望が挙がった
：情報交換ツールとしては、業務PCで使いやすいもの（LINE以外）を希望する意見もあった

今後の研修・継続的な学びへの期待

：継続講座や深化したID（インストラクショナルデザイン）を学ぶ場が必要で、専門学校業界にも十分な研究期間が求められている
：次回の研修でも、質疑や実践を通じてさらなる学びが得られることを楽しみにしている
：研修中にやむを得ず離席してしまい説明を聞き逃す場合があるなど、オンライン特有の課題にも配慮してほしい旨が伝えられている

研修3

研修全体の満足感と感謝

：「とても刺激的な研修」「得るものが多い研修」といった満足の声が多く寄せられた
：無知な状態で参加した場合でも「温かい対応」を受けられた点や、授業改善に役立つ学びが得られたことに感謝の言葉が目立った
：「確実にやります！」「自校で学んだことを活かします」といった実践への強い意欲が表れている。

事前課題のボリュームと時期の改善要望

- ：事前課題のボリュームが多く、取り組みに苦労したという声が挙がった。
- ：研修時期については、通常授業がある10～12月を避け、2～3月に実施する方が参加しやすいとの意見が寄せられた。

他校との交流と学び

- ：「他校での実例や多くの先生方との交流」が刺激的であり、多くの学びを得られた点が高く評価された
- ：他校の取り組みを参考にしながら、自校での活用を意識した姿勢が見られた

研修の成果と実践への意欲

- ：研修で得た内容を「自校で活かす」「確実に実践する」といった、学びを行動に移そうとする意欲が顕著であった
- ：授業改善に具体的なヒントを得られたことで、今後の取り組みに対するモチベーションが高まっている

7. 2025年度に向けた講座の課題点・改善点

研修1、研修2、研修3を通して見られた課題点・改善点として、以下を提示する。

- 時間配分・進行の工夫
 - 課題
 - ディスカッション時間や質疑応答の時間が不足していると感じる声が多い
 - 書く時間と話す時間が分けられていないため、両方が中途半端になる場面がある
 - ブレイクアウトルームの移動後に指示が見られなくなり、進行が迷子になることがある
 - 改善案
 - 各セッションのディスカッション時間を5～10分延長する。
 - 書く時間と話す時間を明確に分けたスケジュールを提示する
 - 進行内容や指示を常時確認できるようにする仕組み（画面共有や資料表示など）を導入する

- 事前課題と研修時期の見直し
 - 課題
 - 事前課題のボリュームが多く、取り組みに苦労したという声が多い
 - 研修時期が10～12月では通常授業と重なり、参加が難しいという意見
 - 改善案
 - 研修目的からして、課題量は適性とする。時間的余裕を持った時期（初日の1ヵ月前、等）にオリエンテーション実施と、課題取組時間を担保する
 - 研修時間帯を14:30-17:30にすることで、学校業務スケジュールと合わせやすくする
 - オリエンテーション時に受講生上司にも参加いただき、研修内容理解と受講生への期待値を考えてもらう

- 具体例・実践共有の充実
 - 課題
 - モジュールの具体例や他校の実践例をもっと知りたいとの要望がある
 - 他校の授業改善活動やツール活用の結果について、時系列で例示してほしいという意見
 - 改善案
 - 他校の事例や成果を共有する場を設ける（例：報告会や実践例発表会、受講生上司に参加してもらう）
 - ツール作成後の運用事例や改善案を、次回研修やフォローアップセッションで共有する
 - 令和6年度の受講生の自校事例を令和7年度の教材に入れ込む（モジュール自体や課題そのものを増やすという意味ではない。また、受講生許諾が必要。今後は公開前提で受講生募集を行うことも検討すべきである。）

- グループワークの構成・交流の工夫

- 課題
 - グループの構成が固定されており、幅広い意見交換が難しい
 - 学科や専門分野ごとに分けたグループ編成の提案があった
 - 改善案
 - グループ編成をテーマや専門分野ごとに柔軟に変更
 - グループワークで共有された内容を、全体で簡単に発表する時間を設ける
- 使用ツールと環境の最適化
 - 課題
 - LINEや研修用フォームの使用が不便で、Google Classroomやスプレッドシートが好ましいとの意見
 - フォームや資料が使いにくい、または進行に合わないとの声
 - 改善案
 - 研修ツールをGoogle Classroomやスプレッドシートなど、参加者にとって使いやすいプラットフォームに移行する
 - 資料の事前配布やオンライン共有を強化し参照しやすくする
 - 上記は全専研のLMS整備の課題に関連する
- 研修のフォローアップと継続的な学び
 - 課題
 - 学んだ内容を自校に活かすためのフォローアップ体制が求められている
 - 継続的な講座や深化した内容の研修を希望する声が多い
 - 改善案
 - 研修終了後にフォローアップセッションや進捗報告会を設ける
 - 授業見学や学生アンケートを活用し、改善の成果を共有する場を提供する
 - 半年後(2025年7月頃)に受講生上司に「組織レベルへの普及確認」目的でインタビューしてみる

以上